

I 調査の概要

1 調査の目的

令和7年度から「長野県社会的養育推進計画」（後期計画）が開始されたことから、被措置児童の生活状況、保護者への支援状況、施設職員の支援状況等を定量的に把握し、計画における各種取組の進捗状況を確認するため、「被措置児童等へのアンケート調査」を実施する。

2 調査対象

施設入所・里親等委託児童の内、小学校1年生以上の児童（児童相談所職員や施設職員・里親の聞き取り又は補助を受けての回答）

3 回収状況

回収数 374 票 回収率 70.2%

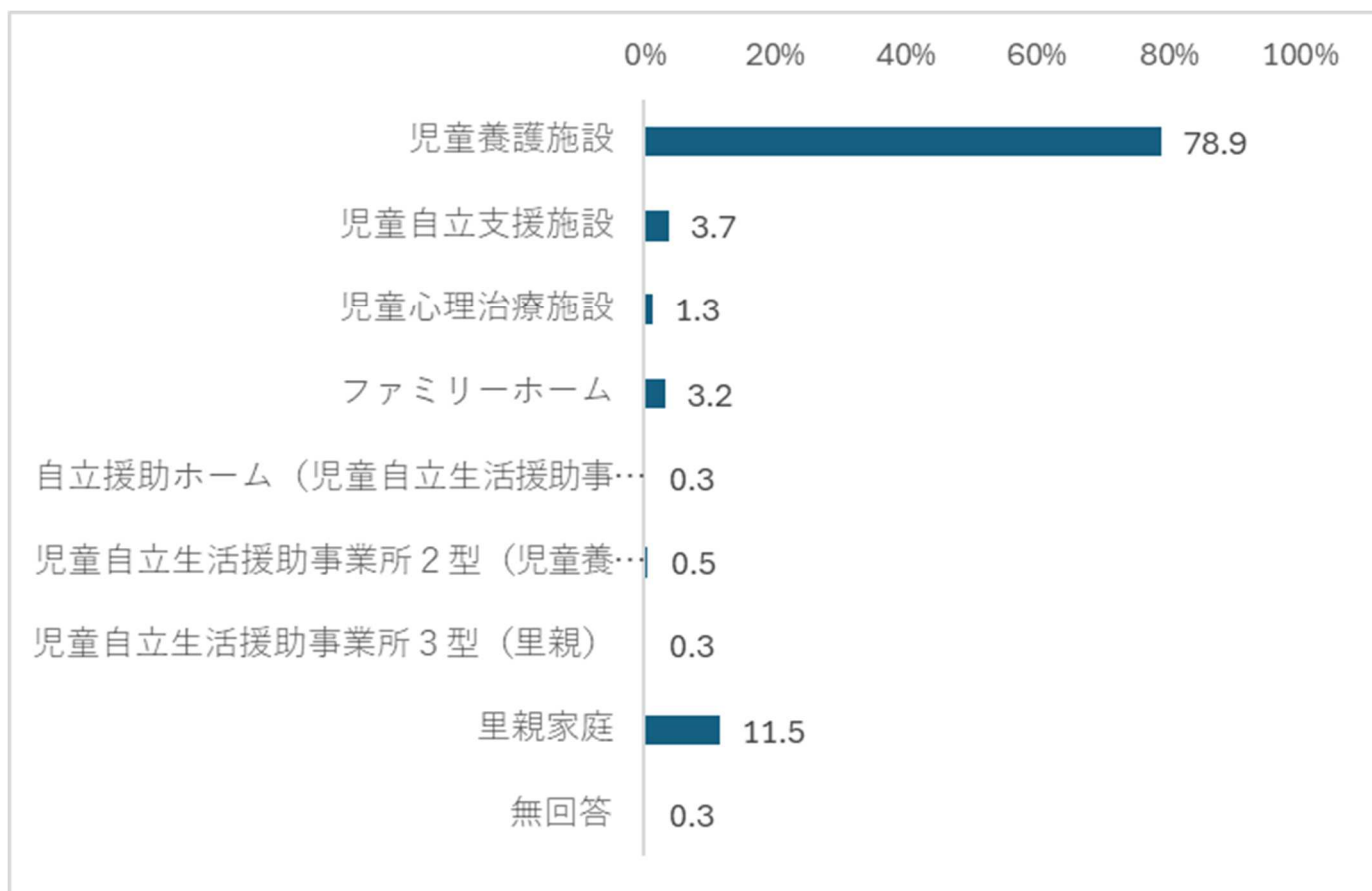
4 留意点

- ・図表中の「n」は、その設問に対する回答者数。小数点第1位以下まで示した数値は、回答比率（%）。
- ・集計結果の%表示は、小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100%にならない場合あり。
- ・複数回答が可能な場合の設問の場合は、回答比率の合計は通常100.0%を超える。
- ・問15及び問28の内訳は記述式のアンケートであるため、記述内容を意味のある文に切片化した後コーディングし、共通するコードを集約しグラフで示している。

II 調査の概要

1 単純集計

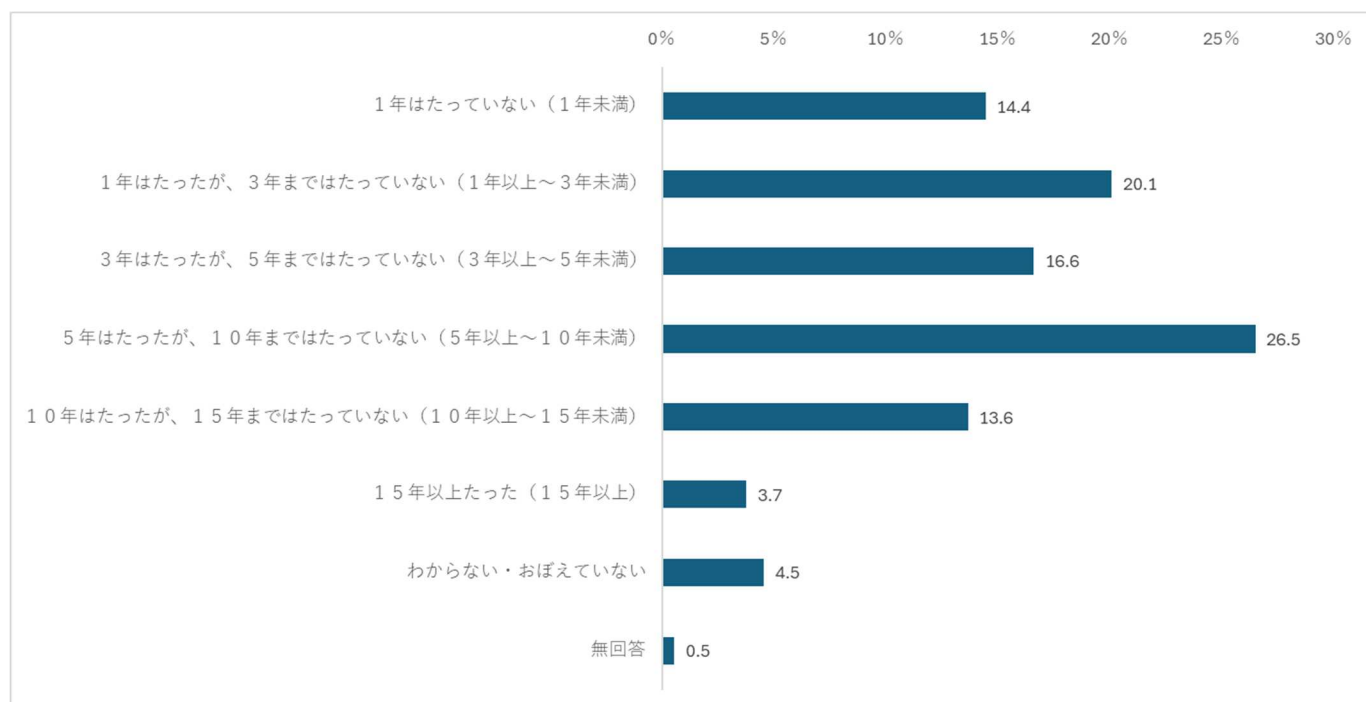
問1 いま生活している施設・里親家庭などの種類を教えてください。(1つ選択)



・「児童養護施設」が最も多く78.9%。次いで里親家庭が11.5%となっている。

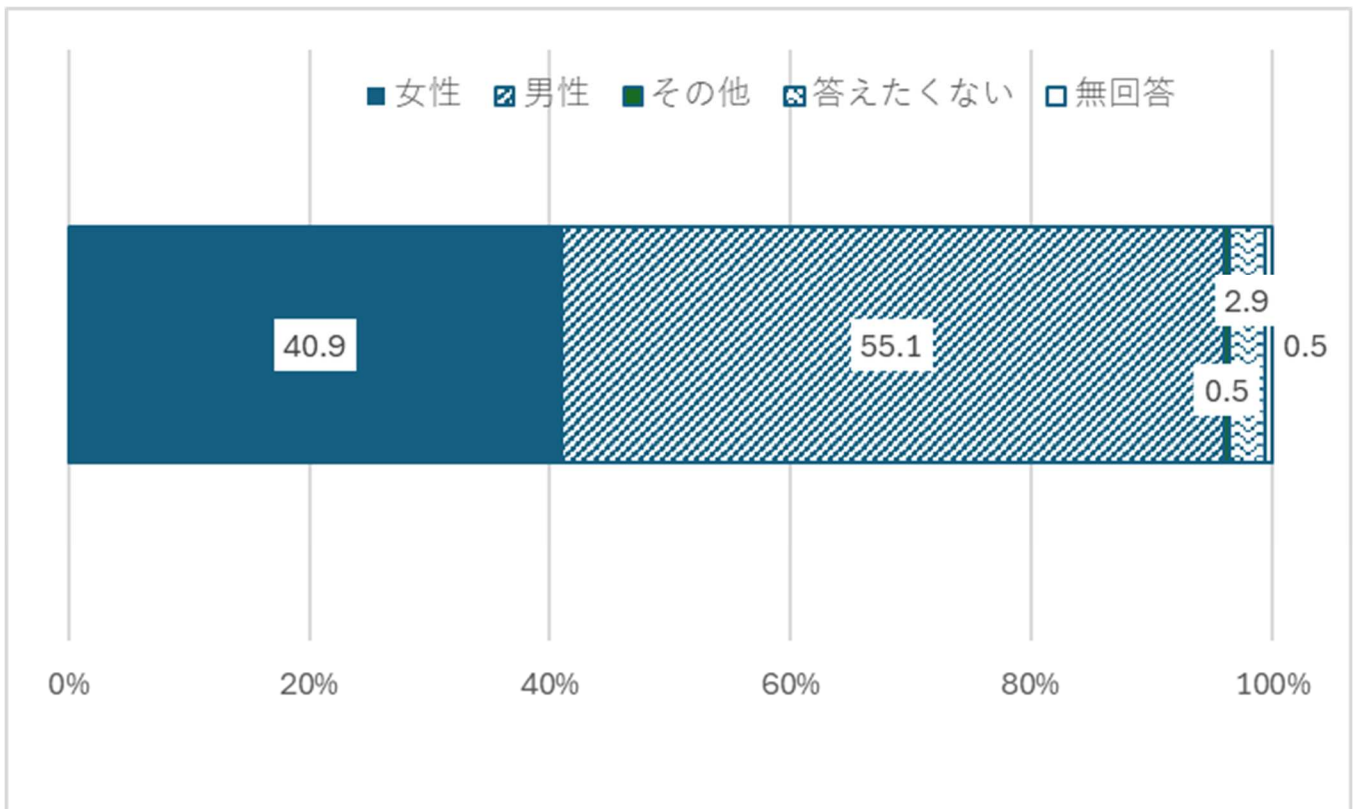
問2 いまの施設・里親家庭などで生活がはじめてから何年たちましたか。

※施設の本体・本園からグループホームに移った場合など、生活する建物や場所が変わっても、同じ施設であれば、最初にいまの施設にきたときから数えてください。(1つ選択)



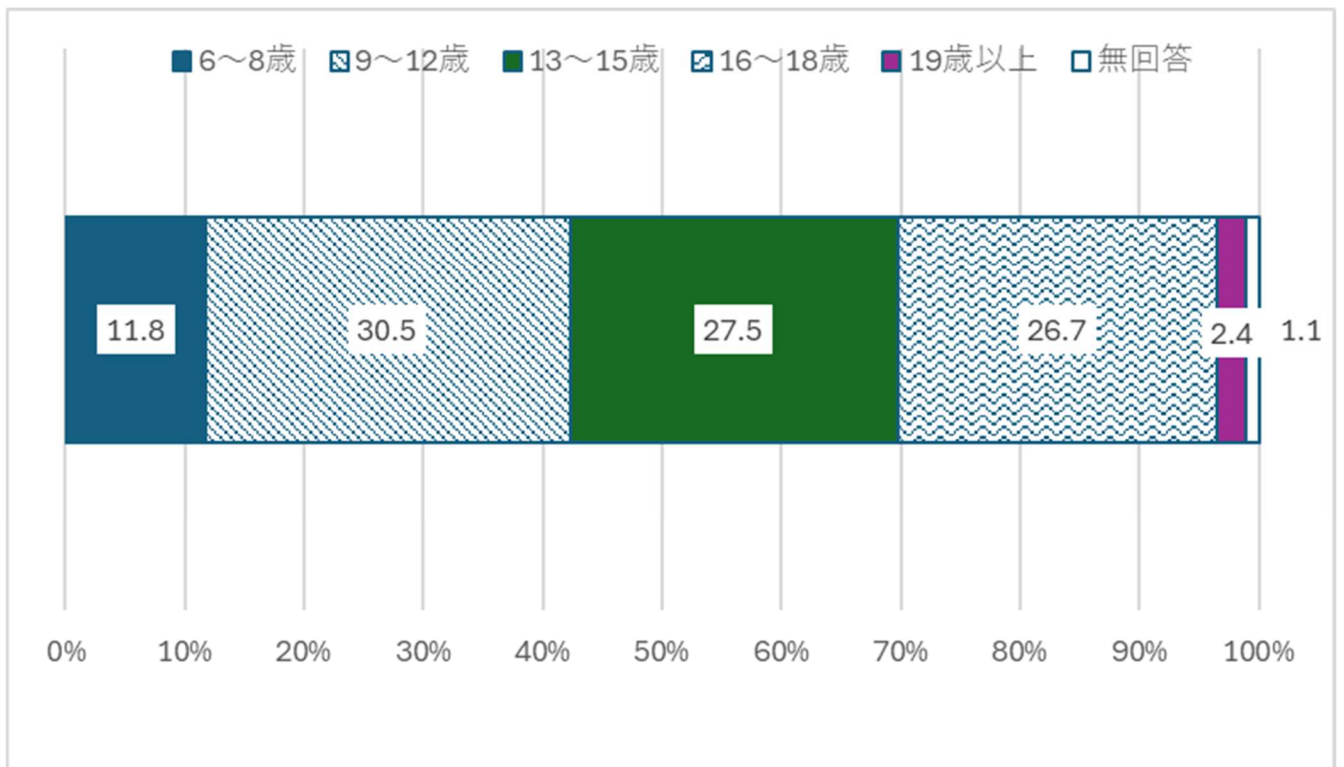
・「5年から10未満」が最多で26.5%。次いで「1年以上～3年未満」が20.1%となっている。

問3 性別を教えてください。(1つ選択)



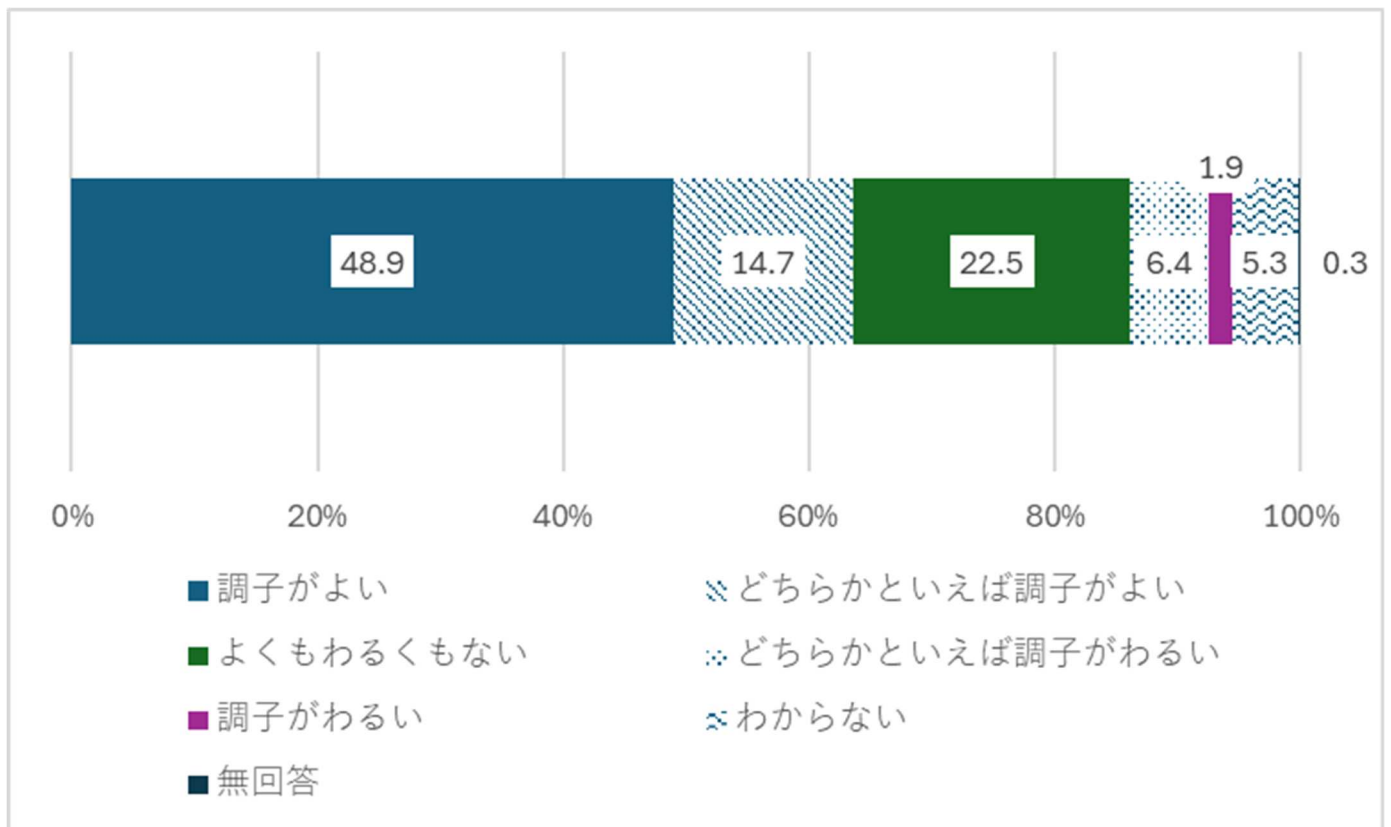
・「男性」が55.1%、女性が「40.9%」となっている。

問4 いまの年齢を教えてください。



・「9歳～12歳」が30.5%で最多。次いで「13歳～15歳」が27.5%、「16歳～18歳」が26.7%となっている。

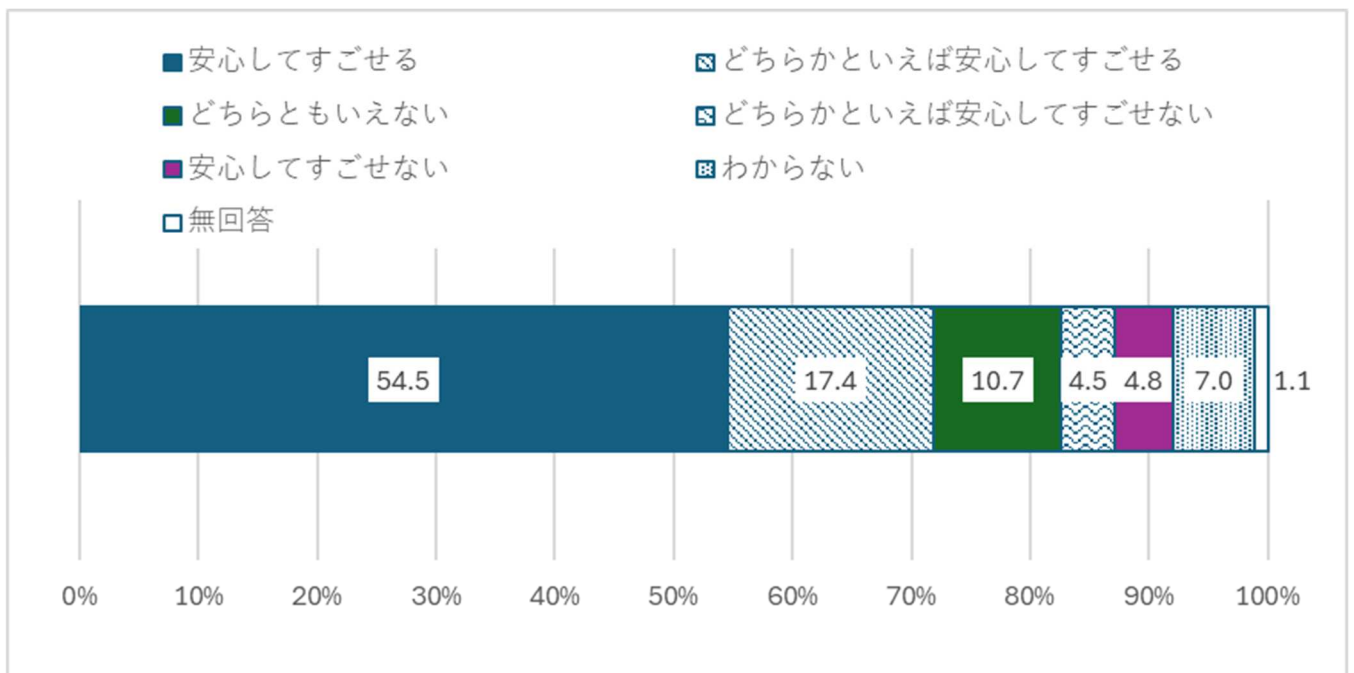
問5 いまの心と体の調子はどうですか（1つ選択）



・「調子が良い」が48.9%でもっとも多い（-0.5ポイント）。以下「よくもわるくもない」22.5%（+7.4ポイント）、「どちらかといえば調子が良い」14.7%（+4.2ポイント）、「どちらかといえば調子がわるい」6.4%（-1.3ポイント）、「わからない」5.3%（-3.8ポイント）、「調子が悪い」は1.9%（-4.6ポイント）となっている。

※（）内は昨年度比。

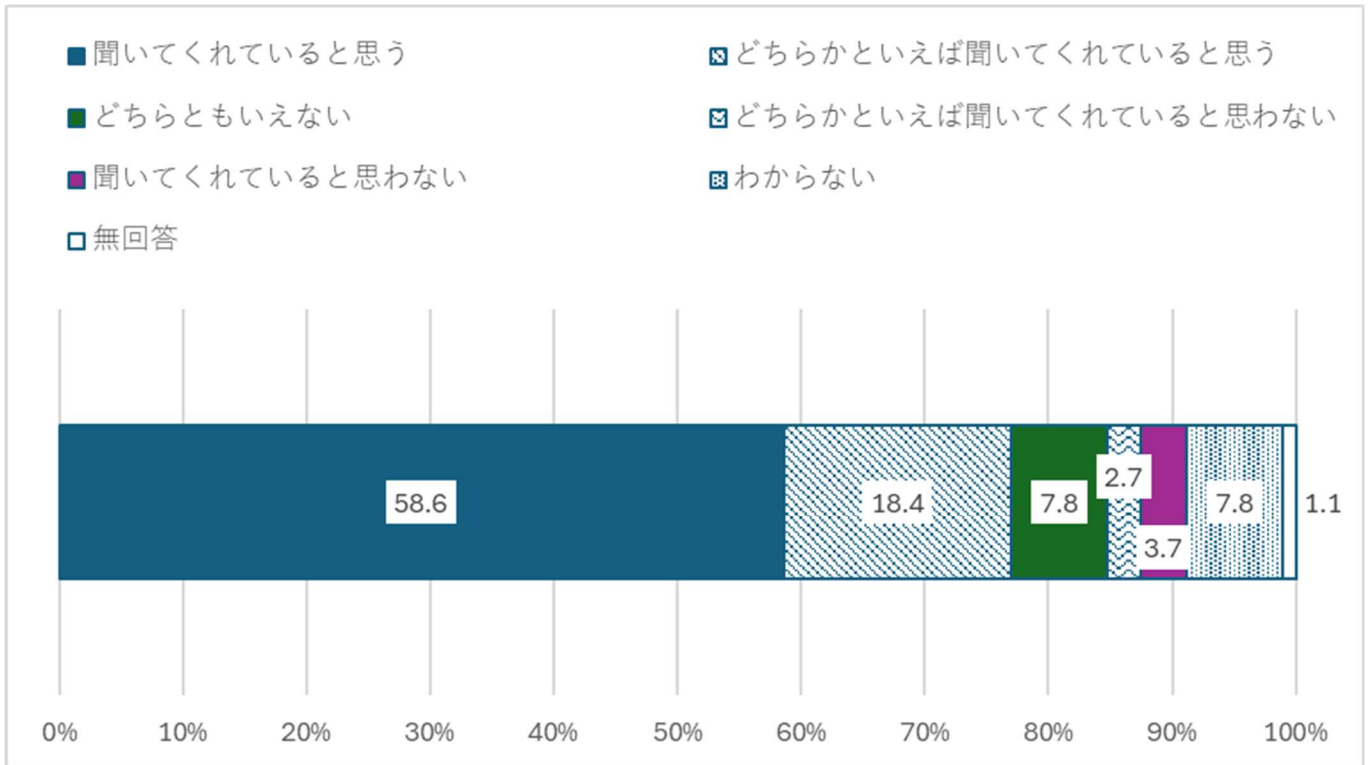
問6 いま生活している施設・里親家庭などでは、安心してすごせますか。（1つ選択）



・「安心してすごせる」が54.5%（-0.6ポイント）で最多となっており、以下「どちらかといえば安心して過ごせる」17.4%（+2.3ポイント）、「どちらともいえない」10.7%（-0.4ポイント）、「分からない」

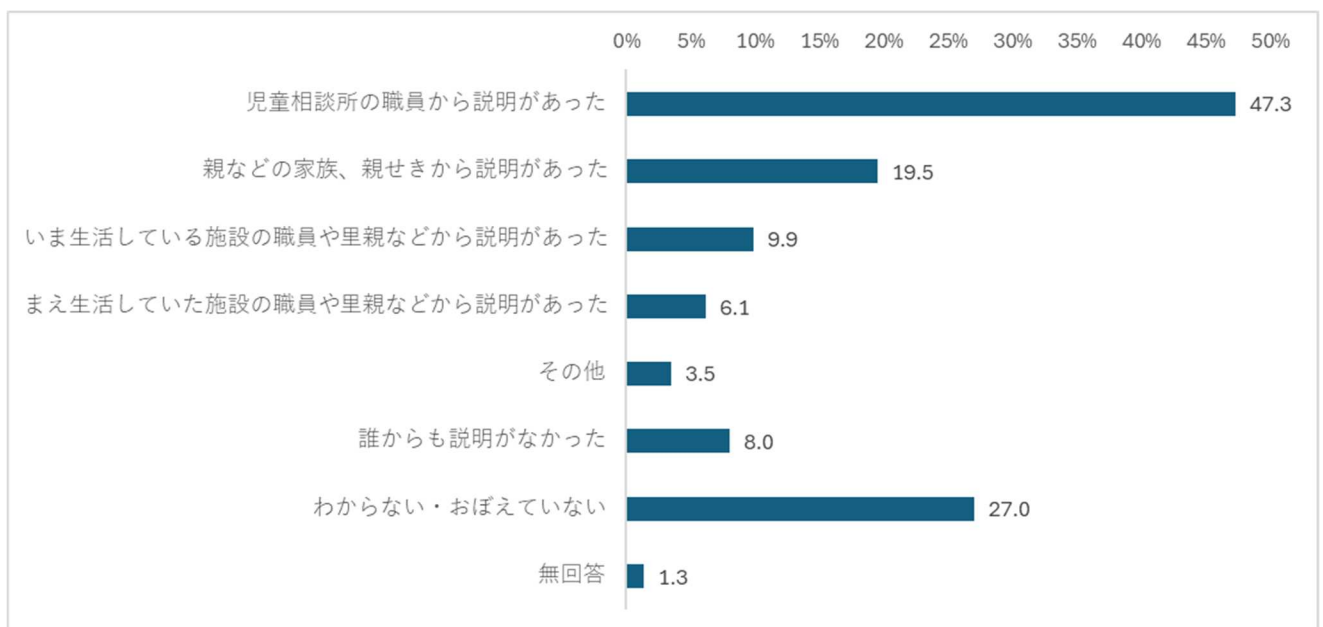
7.0% (+0.5 ポイント)、「安心してすごせない」4.8% (-1.7 ポイント) となっている。

問7 いま生活している施設や里親家庭で、おとなは、あなたの考えや思ったことを聞いてくれていると思いますか。(近いものを1つ選択)



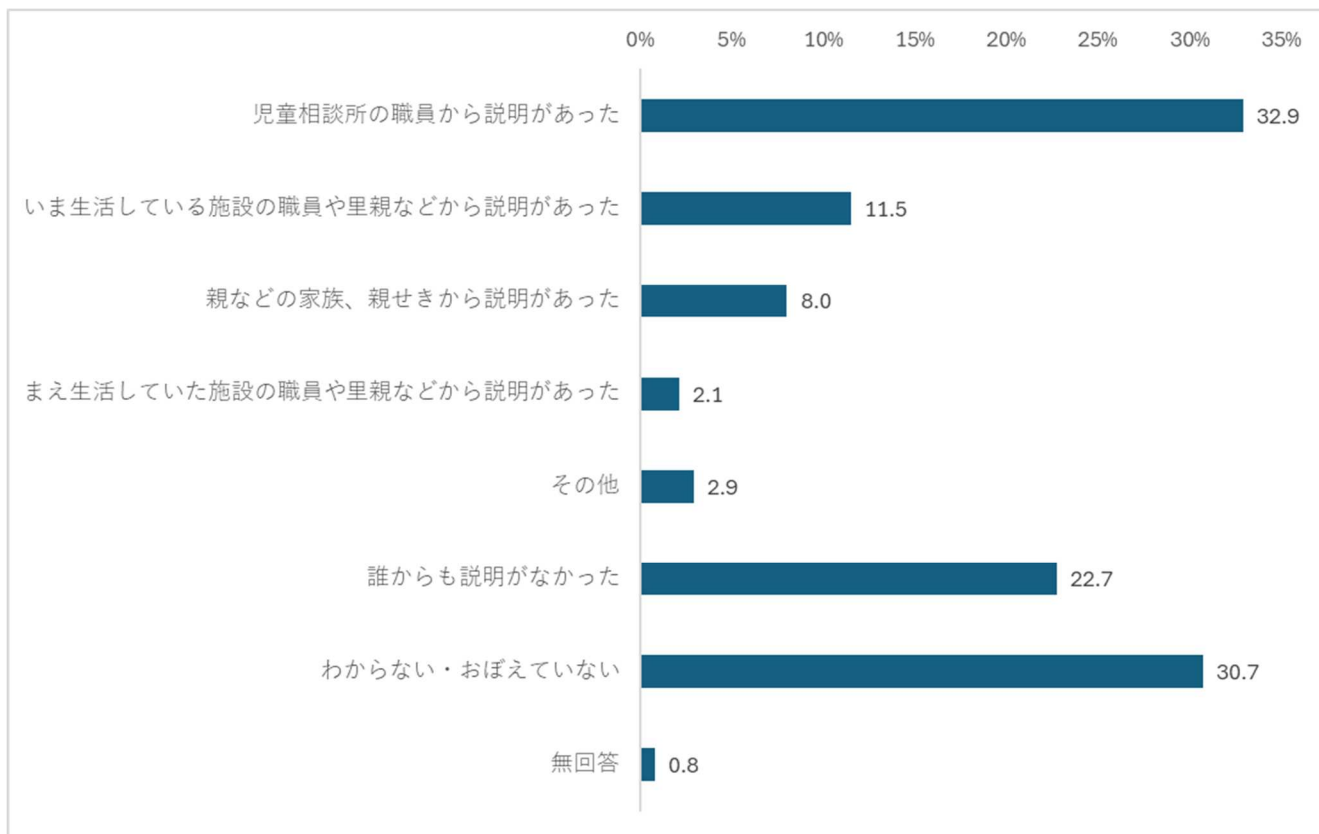
- ・「聞いてくれていると思う」が58.6% (+1.8 ポイント) で最多となっており、以下「どちらかといえば聞いてくれていると思う」18.4% (+2.2 ポイント)、「どちらともいえない」7.8% (-2.4 ポイント)、「わからない」7.8% (-3.6 ポイント)、「聞いてくれていると思わない」3.7% (-1.4 ポイント)、「どちらかといえば聞いてくれないと思う」2.7% (+1.3 ポイント) となっている。
- ・多くのこどもが傾聴されている実感を持っている一方、約2割弱は中立・不明、約6~7%は否定的で、全員が十分な実感を得ているわけではない状況。

問8 自分がなぜ施設や里親家庭などで生活しているのかについて、いままで、自分に関係するおとなから説明がありましたか。(あてはまるものをすべて選択)



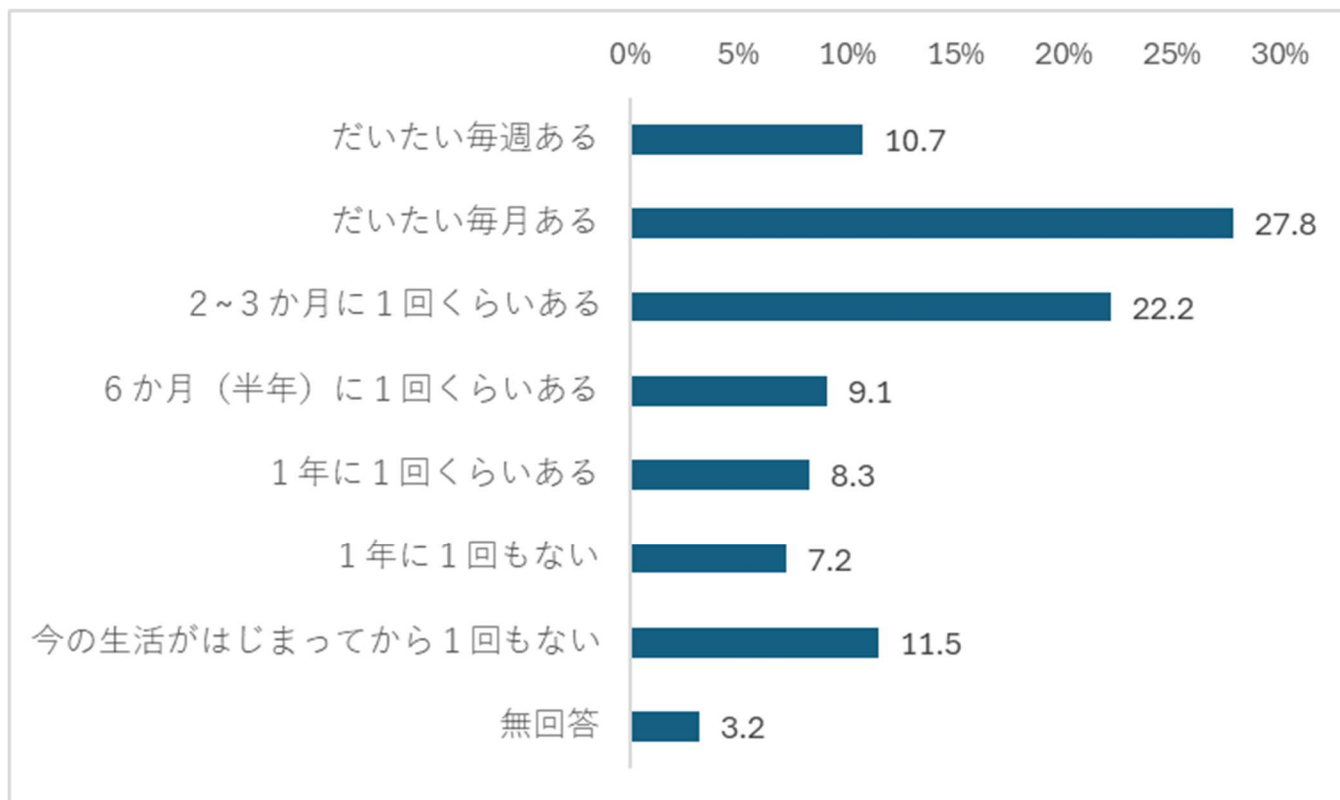
- ・「児童相談所の職員から説明があった」が47.3% (+1.0ポイント)で最多となっており、以下「わからない・おぼえていない」27.0% (-3.4ポイント)、「親などの家族、親せきから説明があった」19.5% (+3.6ポイント)、「いま生活している施設の職員や里親などから説明があった」9.9% (-2.6ポイント)、「誰からも説明がなかった」(+0.6ポイント)、「まえ生活していた施設の職員や里親などから説明があった」6.1% (+2.7ポイント)となっている。

問9 自分が施設・里親家庭などでいつまで生活するのか(いつまで生活できるのか)について、いままで、自分に関係するおとなから説明がありましたか。(あてはまるものをすべて選択)



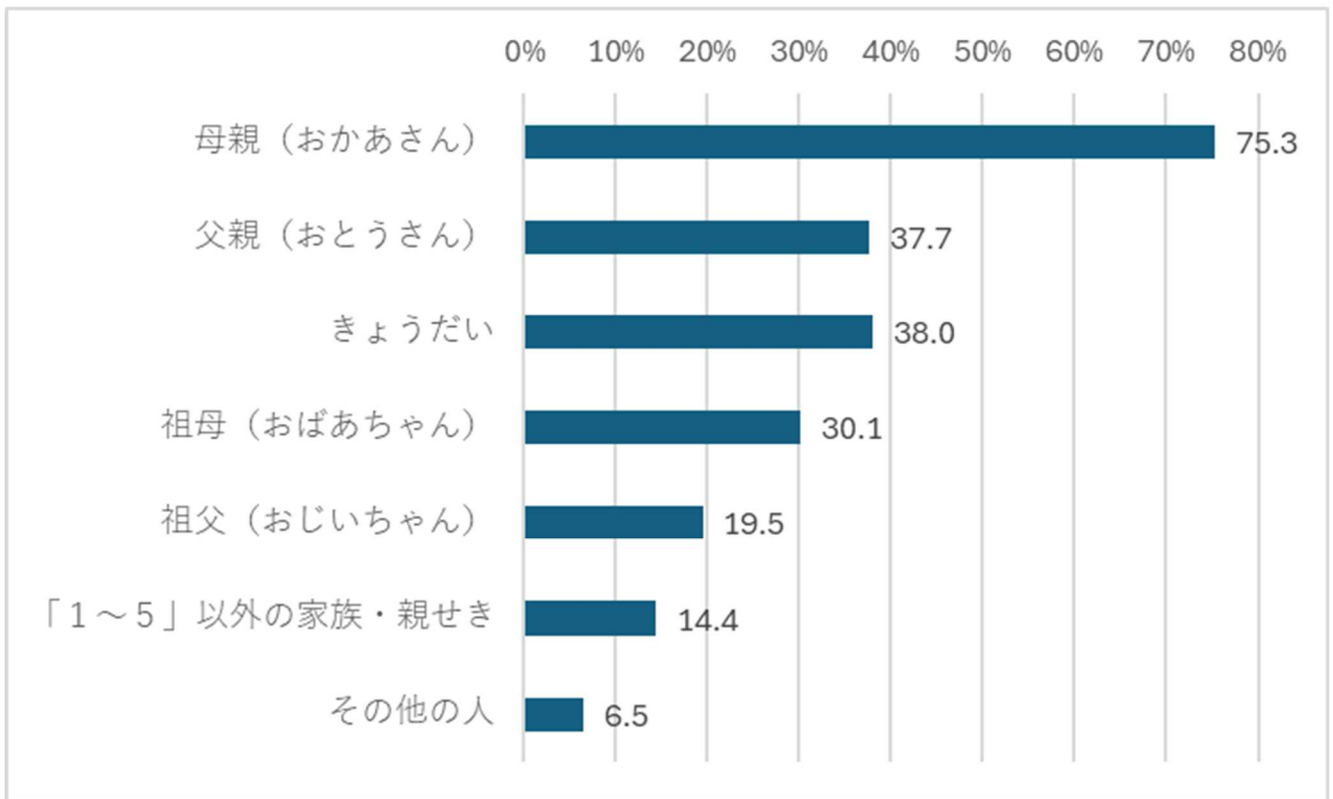
- ・「児童相談所の職員から説明があった」が32.9% (+1.4ポイント)で最多となっており、以下「わからない・おぼえていない」30.7% (-1.1ポイント)、「誰からも説明がなかった」22.7% (+5.4ポイント)、「いま生活している施設の職員や里親などから説明があった」11.5% (-3.6ポイント)、「親などの家族、親せきから説明があった」8.0% (-1.1ポイント)となっている。

問 10 いまの施設や里親家庭などでの生活のなかで、家族や親せきとの交流（手紙や電話・電子メールなどのやり取り、施設などでの面会、外出・帰省など）はどのくらいありますか。（近いものを1つ選択）



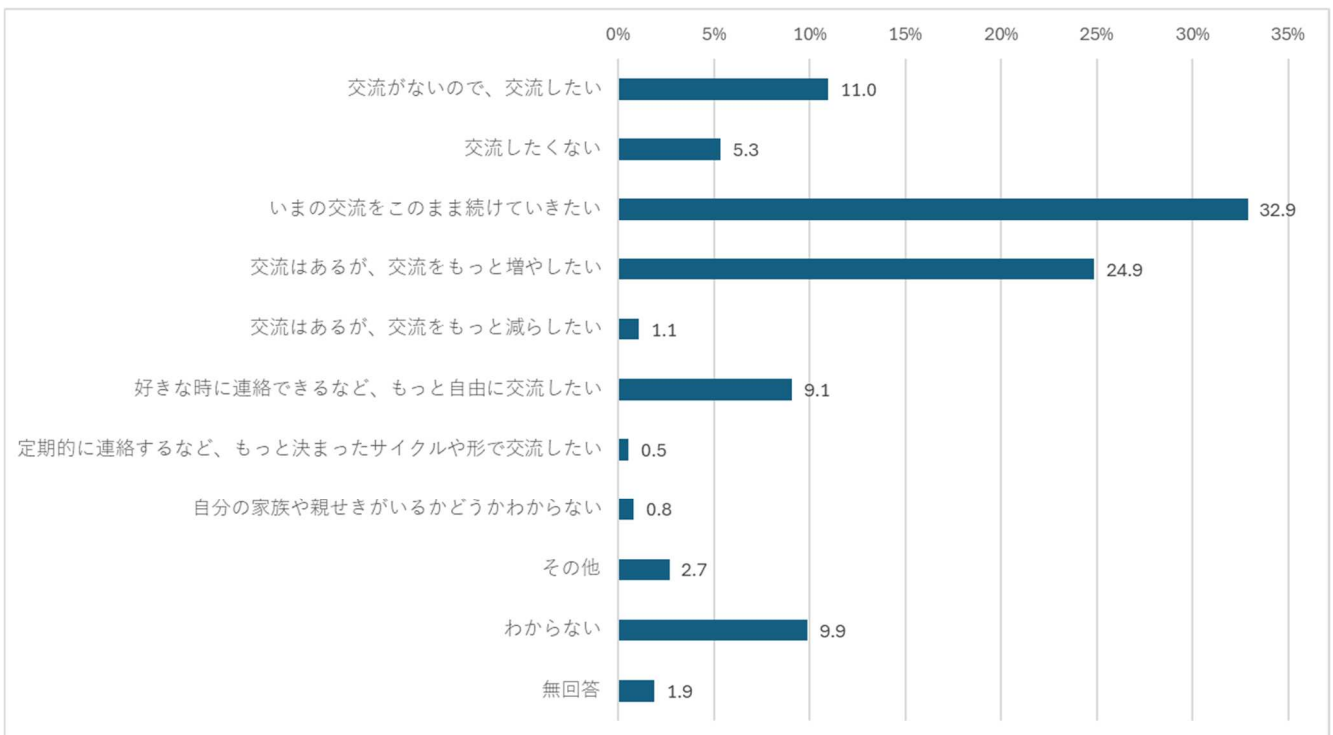
・「だいたい毎月ある」が27.8%（+2.8ポイント）で最多となっており、以下「2~3か月に1回くらいある」22.2%（+0.9ポイント）、「今の生活がはじまってから1回もない」11.5%（+5.0ポイント）、「だいたい毎週ある」10.7%（-1.2ポイント）、「6か月（半年）に1回くらいある」9.1%（-1.1ポイント）、「1年に1回くらいある」8.3%（+1.2ポイント）、「1年に1回もない」7.2%（-7.0ポイント）となっている。

問 11 交流している家族や親せきは誰ですか。(あてはまるものをすべて選択)



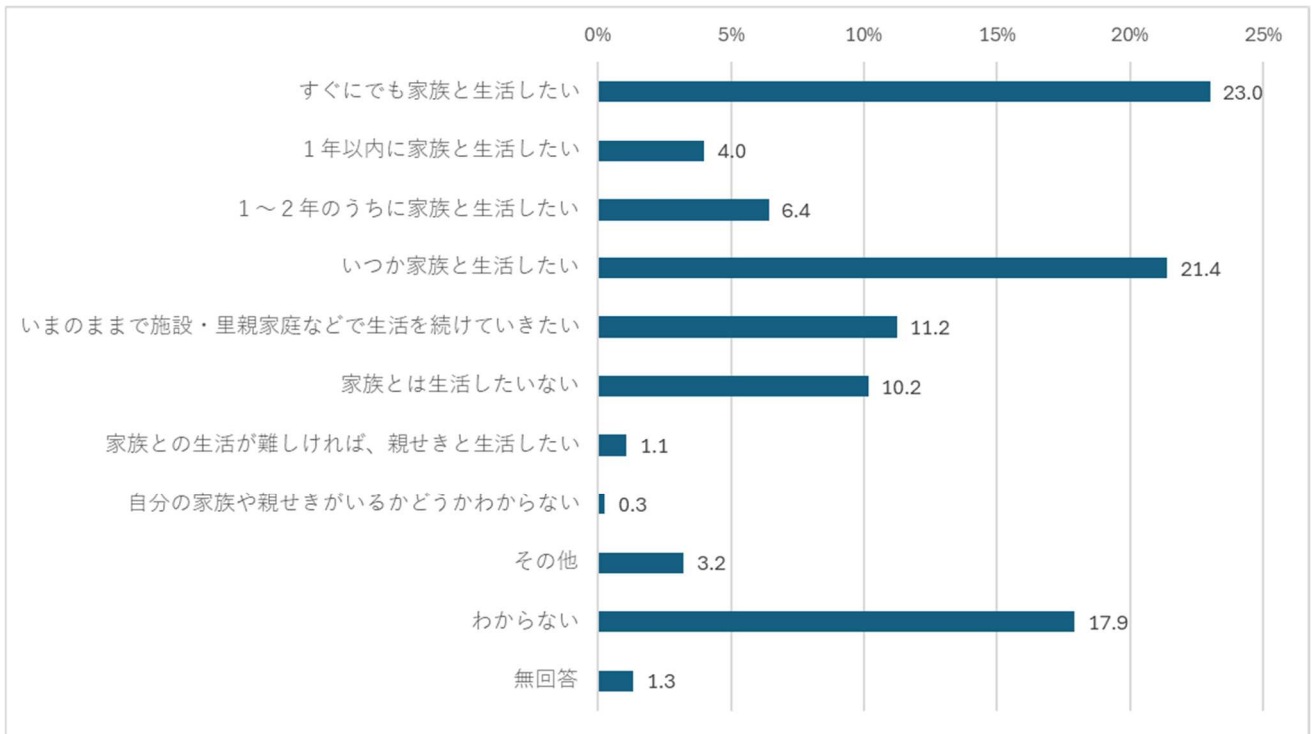
・「母親」が75.3% (-0.3ポイント)で最多となっており、以下「きょうだい」38% (+5.8ポイント)、「父親」37.7% (+2.0ポイント)、「祖母」30.1% (+3.3ポイント)、「祖父」19.5% (+2.6ポイント)、「「1～5」以外の家族・親戚」14.4% (-2.4ポイント)、「その他の人」6.5% (+2.7ポイント)となっている。

問 12 家族や親せきとの交流について、どのように思っていますか。(近いものを1つ選択)



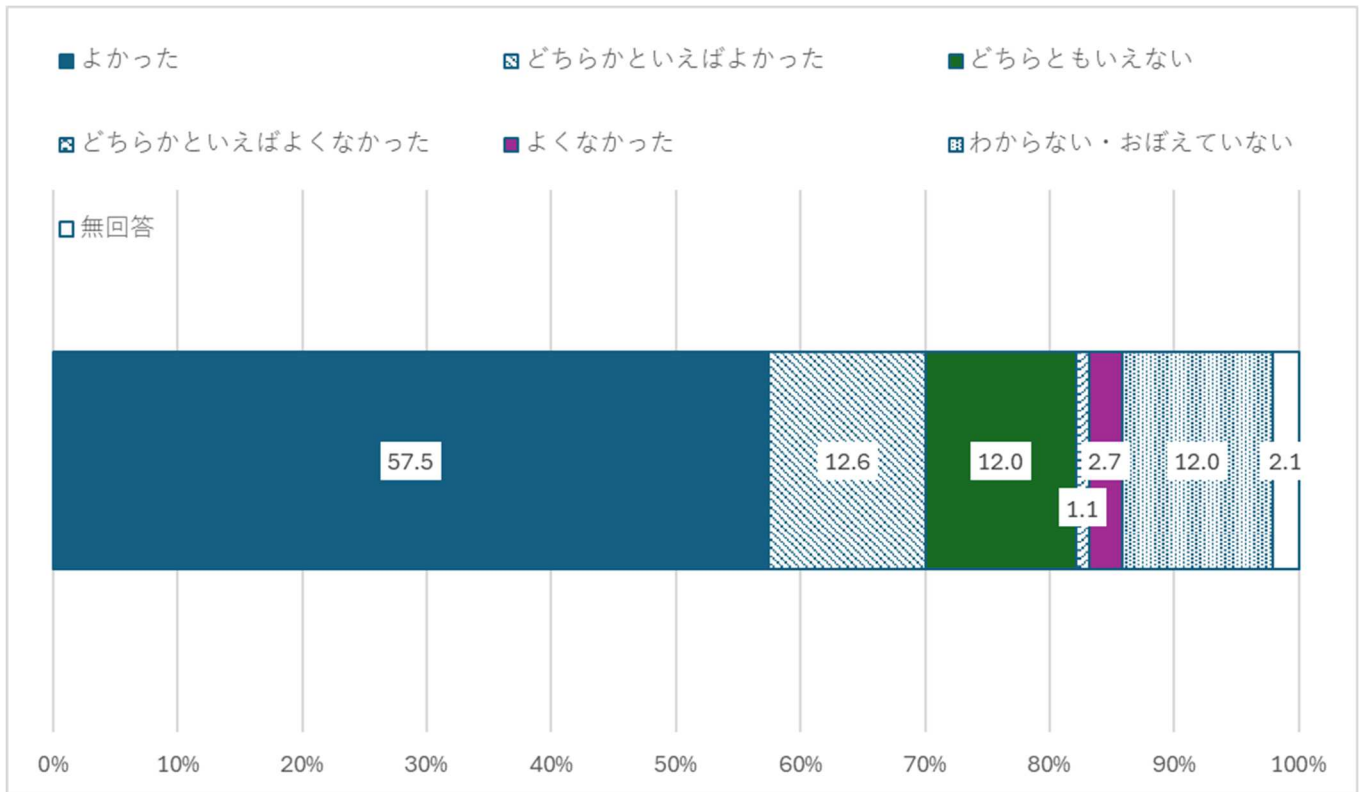
・「いまの交流をこのまま続けていきたい」が32.9%、「交流はあるが、交流をもっと増やしたい」が24.9%となっている。

問 13 家族との今後の生活について、どのように思っていますか。(近いものを1つ選択)



・「すぐにも家族と生活したい」が23%、「いつか家族と生活したい」が21.4%となっている一方で、「分からない」が17.9%となっている。

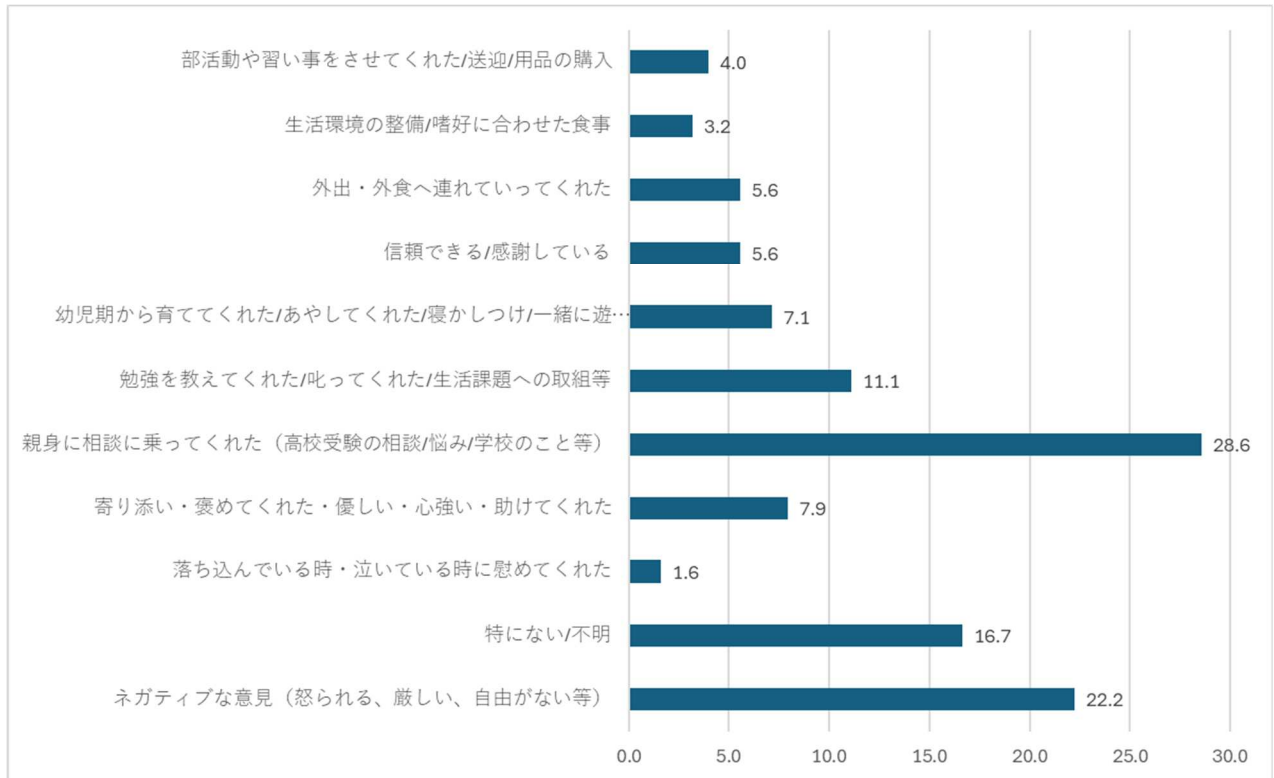
問 14 いまの施設や里親家庭などで、これまで生活してきたことをふり返って、施設職員や里親などの対応や受けたサポートはよかったですか。(1つ選択)



・「よかった」が57.5% (+7.8ポイント)で最多となっており、以下「どちらかといえばよかった」12.6% (-3.3ポイント)、「どちらともいえない」12.0% (+0.1ポイント)、「わからない・おぼえていない」12.0% (-1.6ポイント)、「よくなかった」2.7% (-0.4ポイント)、「どちらかといえばよくなかった」

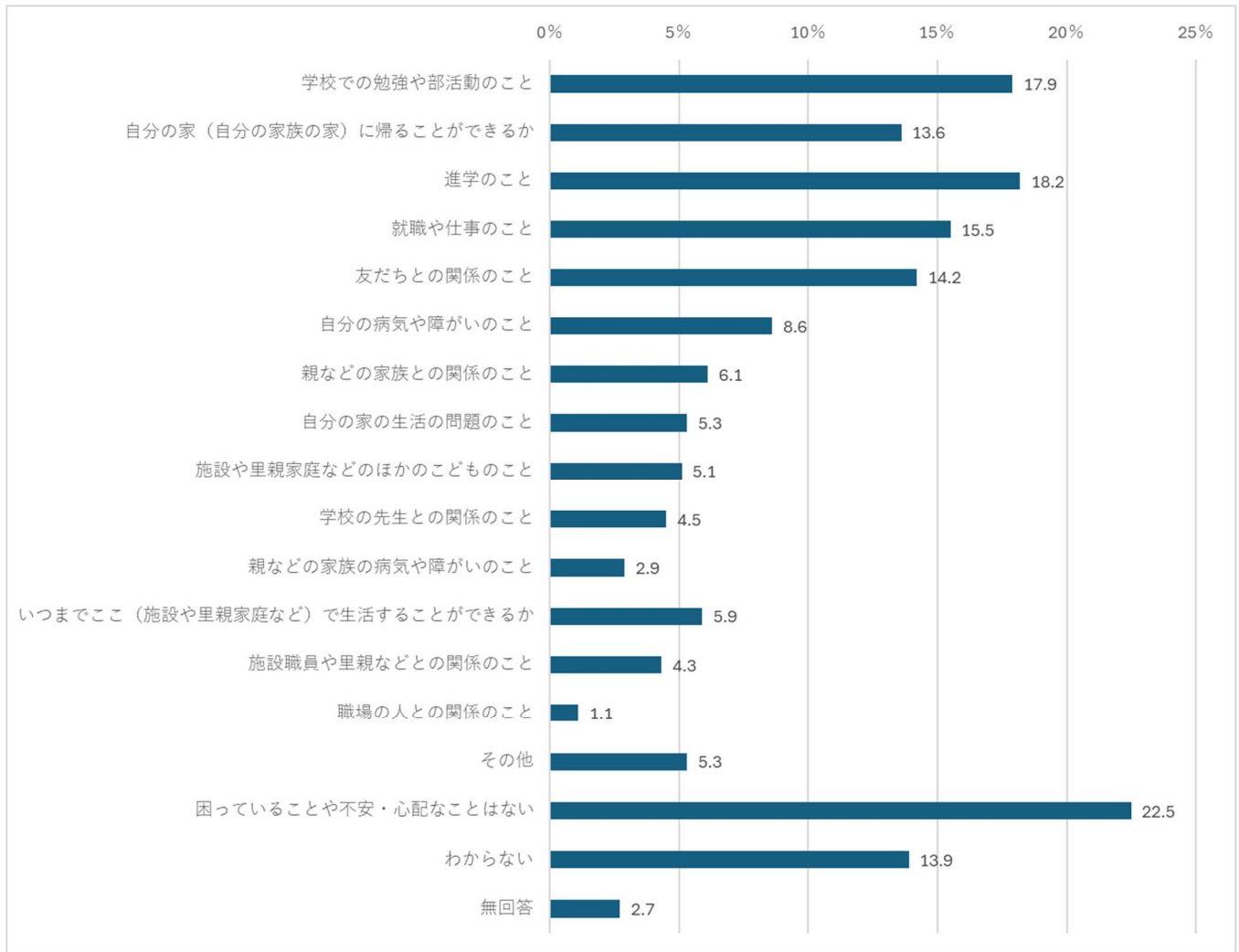
1.1%（-2.6ポイント）となっています。

問15 もしよろしければ、問14について、とてもよかったことや、これからよくしたらいいと思うことを具体的に教えてください。（記述）



・「親身に相談に乗ってくれた」が28.6%で最多となっている一方、「ネガティブな意見」が22.2%と多い。

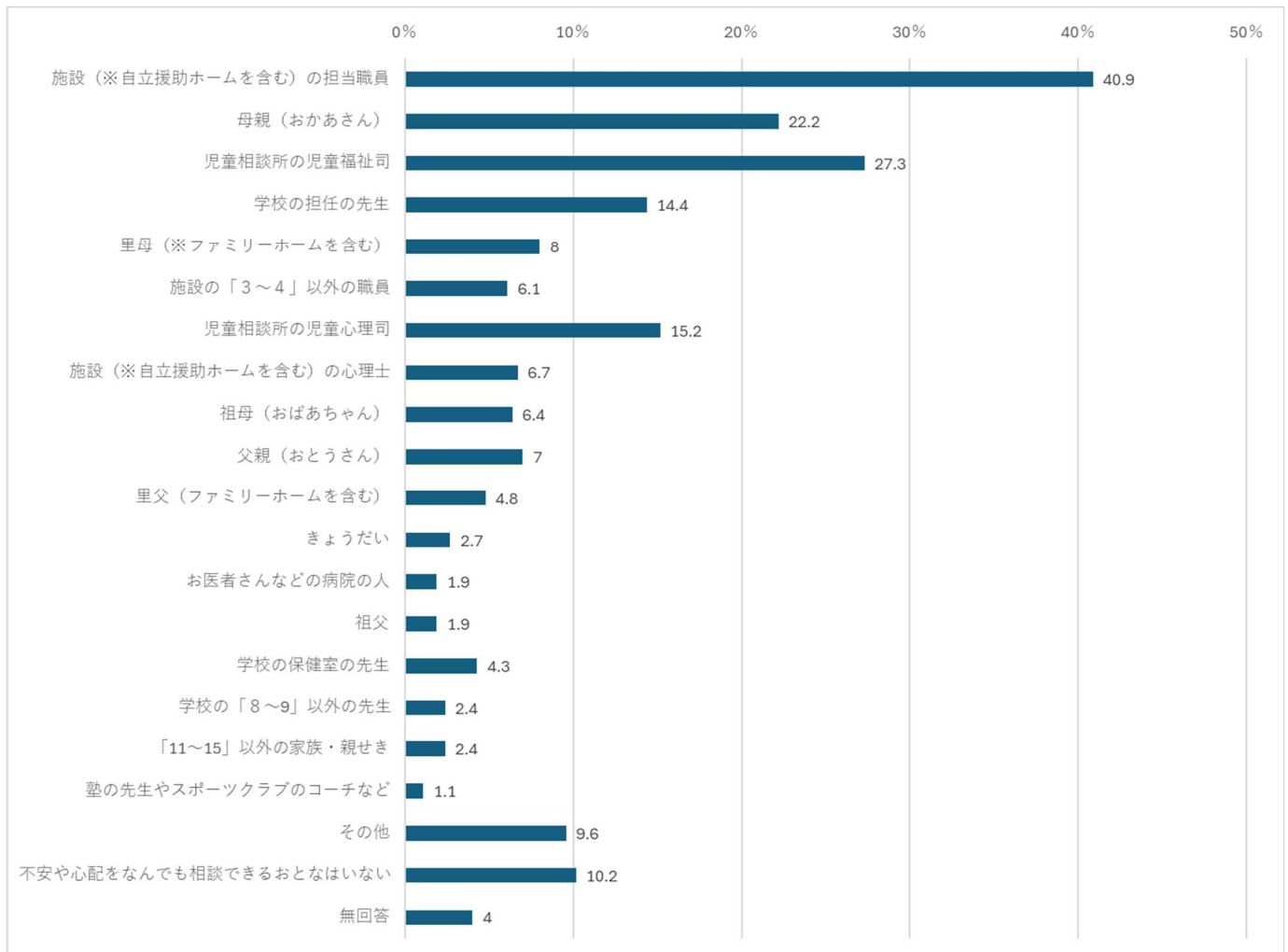
問 16 いまの施設・里親家庭などでの生活で困っていることや不安なこと、心配なことを教えてください。
 (あてはまるものを3つまで選択できます)



・「困っていることや不安・心配なことはない」が22.5% (+4.3ポイント)で最多となっており、以下「進学のこと」18.2% (-1.1%)、「学校での勉強や部活動のこと」17.9% (-2.6ポイント)、「就職や仕事のこと」15.5% (-1.8%)、「友達ちとの関係のこと」14.2% (-2.6ポイント)、「自分の家（自分の家族の家）に帰ることができるか」が13.6% (-6.3ポイント)、となっている。

問 17 いまの生活のなかで、困っていることや不安、心配をなんでも相談できるおとながいれば、具体的に教えてください。(当てはまる者を3つまで選択できます)

1 児童相談所の児童福祉司	2 児童相談所の児童心理司
3 施設（※自立援助ホームを含む）の担当職員	4 施設（※自立援助ホームを含む）の心理士
5 施設の「3～4」以外の職員	6 里母（※ファミリーホームを含む）
7 里父（※ファミリーホームを含む）	8 学校の担任の先生
9 学校の保健室の先生	10 学校の「8～9」以外の先生
11 母親（おかあさん）	12 父親（おとうさん）
13 （おとなの）きょうだい	14 祖母（おばあちゃん）
15 祖父（おじいちゃん）	16 「11～15」以外（いがい）の家族・親せき
17 （いま住んでいるところの）近所のおとな	18 塾の先生やスポーツクラブのコーチなど
19 お医者さんなどの病院の人	20 その他（ ）
21 不安や心配をなんでも相談できるおとなはいない	

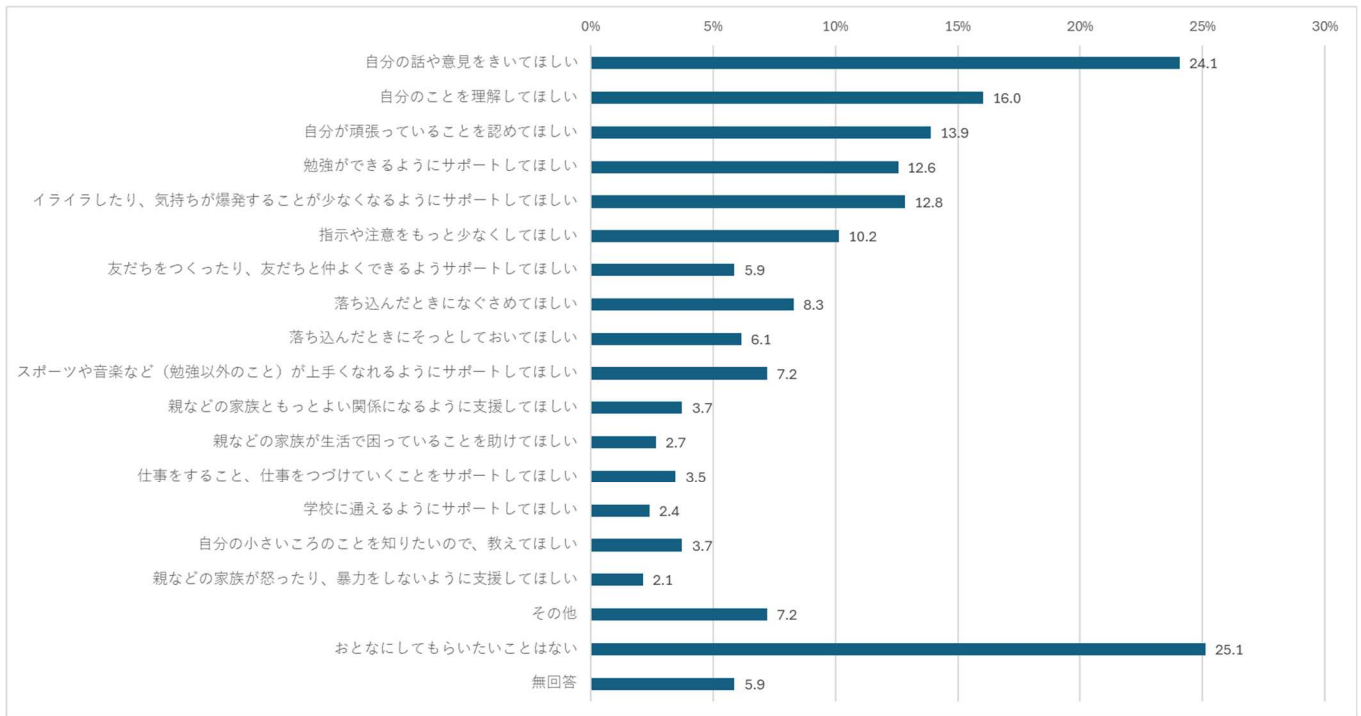


- ・「施設の担当職員」が 40.9% (+2 ポイント)、以下「児童相談所の児童福祉司」が 27.3% (+9.1 ポイント)、「母親」22.2% (+2.9 ポイント)、「児童相談所の児童心理司」15.2% (+8.7 ポイント)、「学校の担任の先生」14.4% (+0.8 ポイント)、「不安や心配をなんでも相談できる大人はいない」10.2% (-0.9 ポイント) となっている。
- ・こどもは、日常的に一番そばにいる職員等を相談相手とする構図にある。
- ・一方で、児童相談所の職員（福祉司&心理司）を挙げた割合が合わせて 42.5%と高い点は、児童相談所が

一定の信頼を得ていることを示唆。

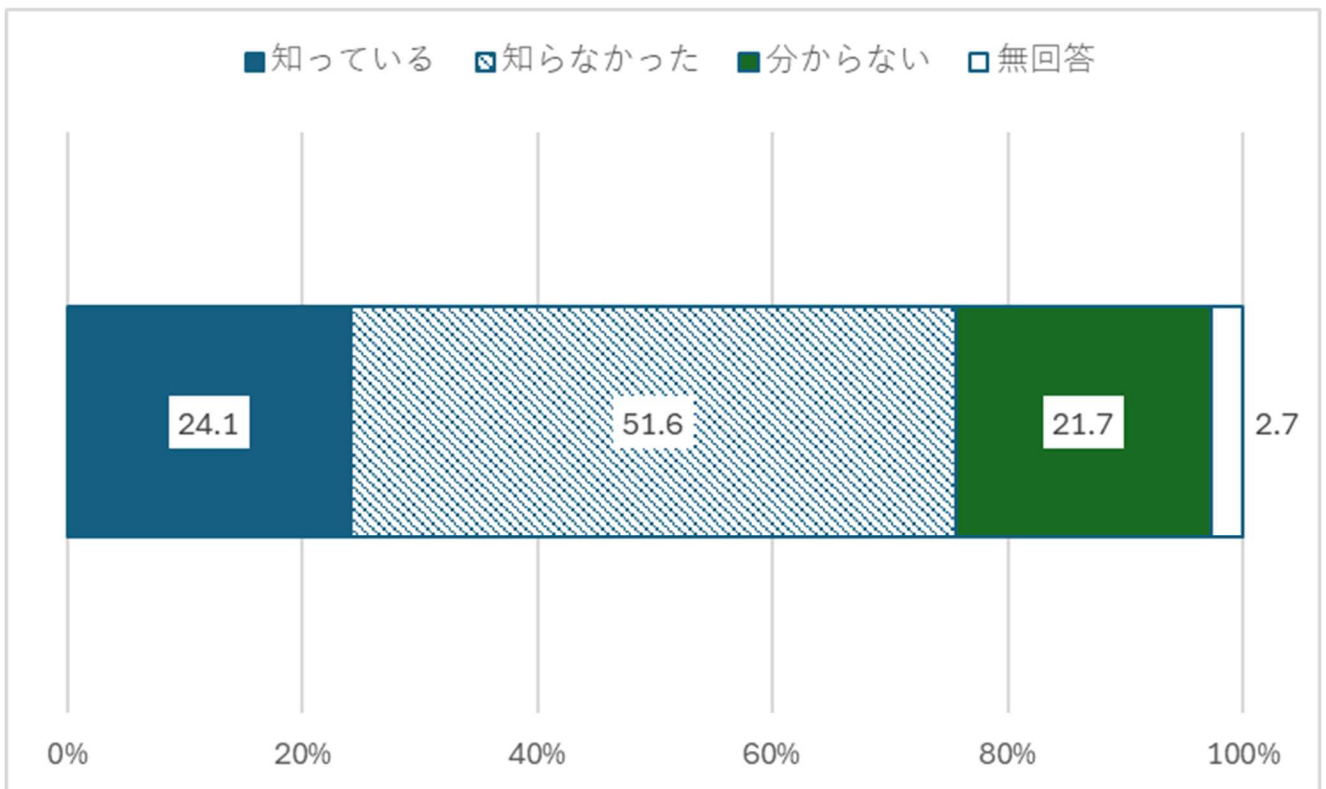
- ・また、社会的養護下にあっても、こどもが親・家族へのつながりを相談相手として保持。

問 18 施設の職員・里親などや、児童相談所などのこどもや家族をサポートするおとなにしてほしい対応やサポートについて教えてください。(あてはまるものを3つまで選択できます)



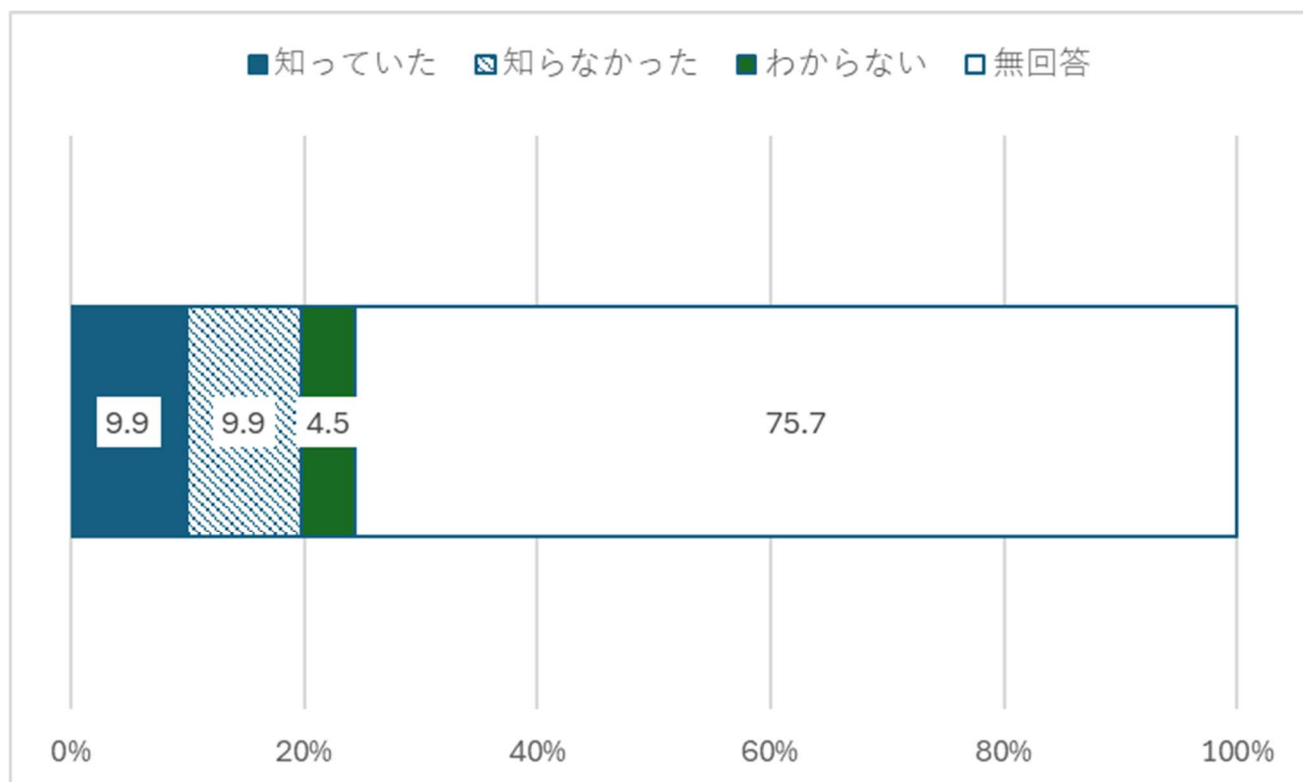
・「おとなにしてもらいたいことはない」が25.1%でもっとも多く、次に「自分の話や意見を聞いてほしい」が24.1%となっている。

問 19 施設の職員・里親などや、児童相談所以外であなたが自分の困っていることや意見を言いたいときに聞いてくれる人を意見表明等支援員(アドボケイト)といいます。あなたは、意見表明等支援員(アドボケイト)に自分の意見を言うことができる、ということを知っていますか。(1つ選択)



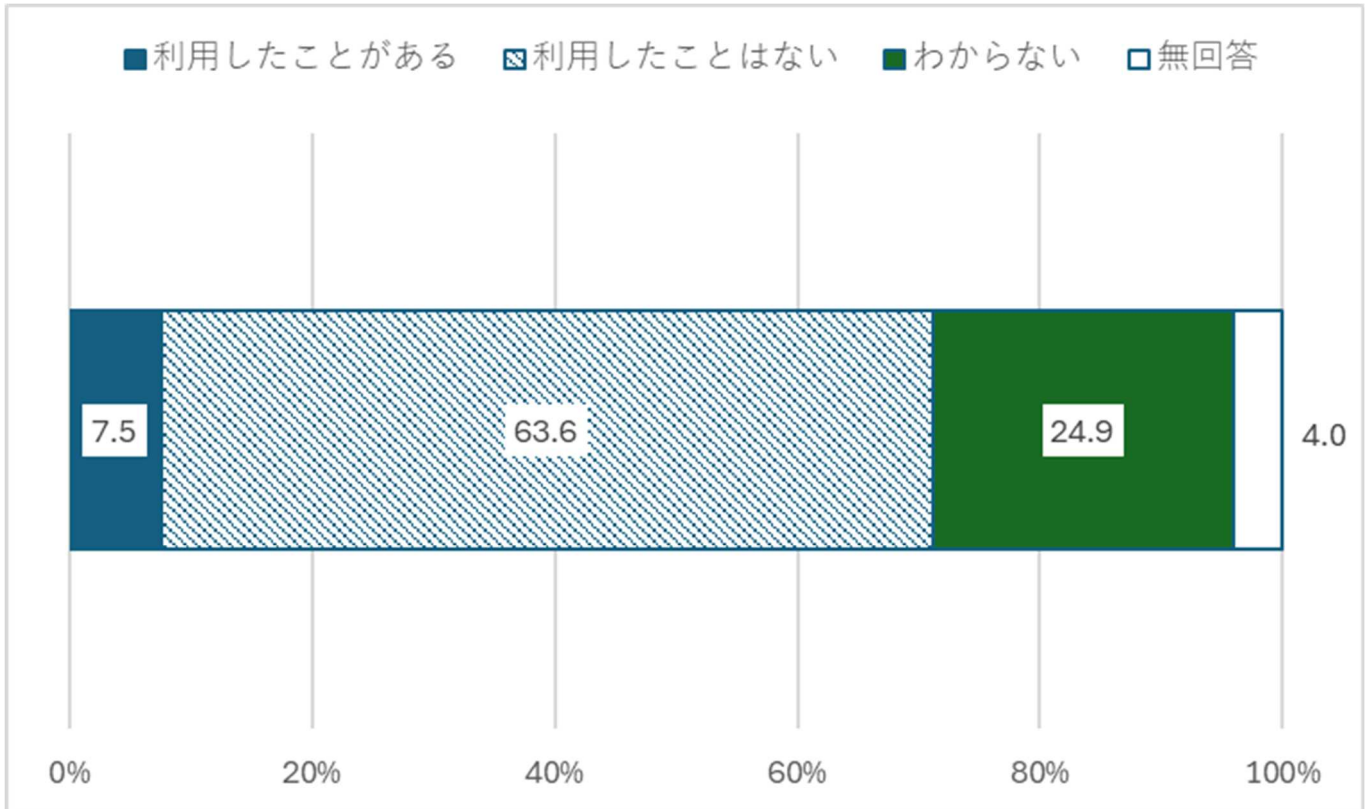
- ・「知っている」は24.1%であり、「知らなかった」51.6%が過半数を占めており、「分からない」は21.7%となっている。
- ・4人に1人しか「知っていた」者がおらず、「知らなかった」+「わからない」で73.3%を占めており、子どもにとってアドボケイトは浸透していない状況にある。

問20 意見表明等支援員（アドボケイト）は、あなたのところに来て、あなたの話を聞いたうえで、希望すれば、児童相談所や、施設や里親家庭にあなたの意見を伝えてくれます。さらに、あなたの希望によって、長野県社会福祉審議会・処遇審査部会という長野県の子どもたちを助けるところに意見を伝えて、あなたが困っていることについて、助けを求めることができます。あなたは、以前から、意見表明等支援員（アドボケイト）の利用のしかたを知っていましたか。（1つ選択）



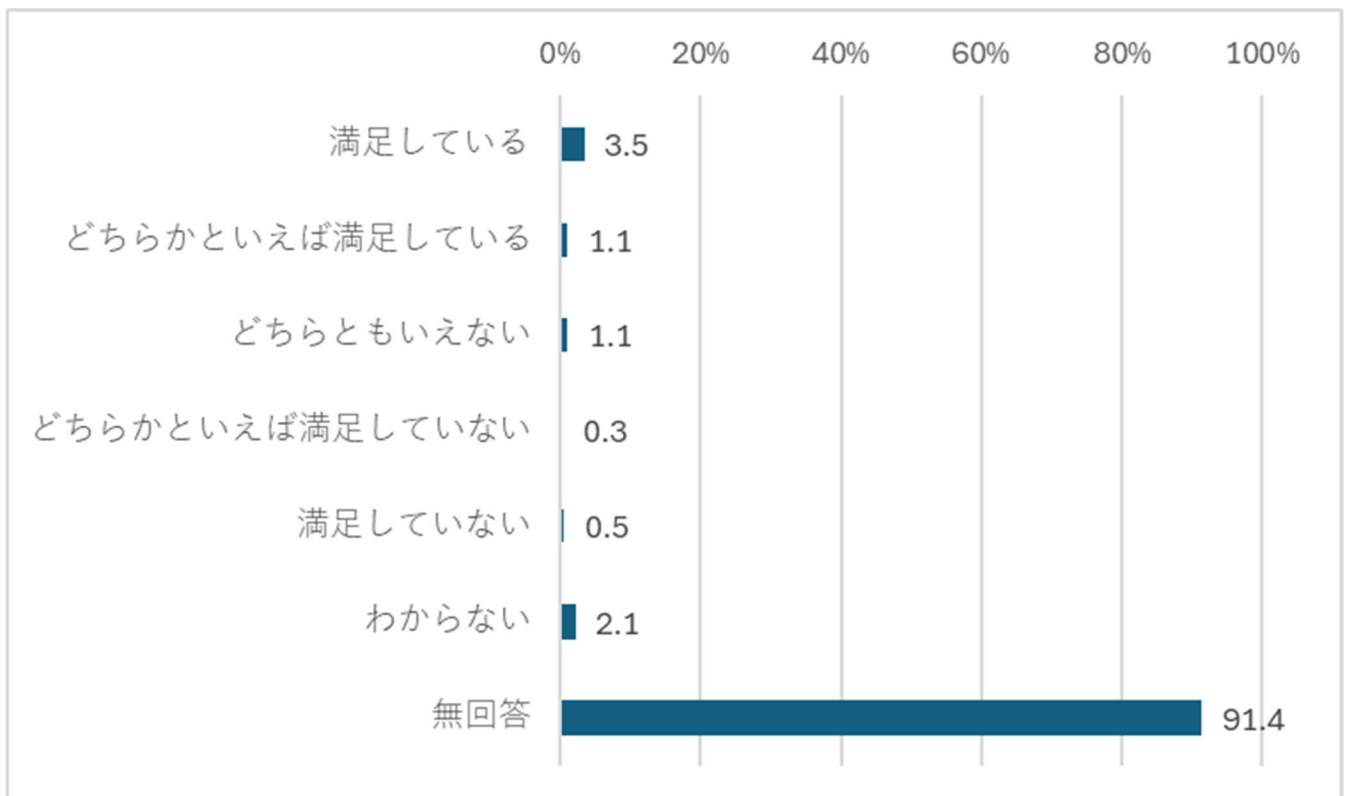
- ・「知っていた」は9.9%、「知らなかった」9.9%、「分からない」が4.5%となっている。「無回答」が75.7%となっている。
- ・無回答が75.7%と多く、要因として「アドボケイトの存在自体を知らないため回答できない」、「説明を受けていない（記憶がない）」、「利用のしかた」まで理解できない等、などの複合要因が推測される。

問21 あなたは、意見表明等支援員（アドボケイト）を利用して、自分の困っていることや意見を言ったことがありますか。（1つ選択）



- ・「利用したことがある」は7.5%、「利用したことはない」が63.6%となっている。
- ・利用経験が7.5%と低く、認知度の低さ・利用方法理解の不足が利用率に直結していると考えられる。

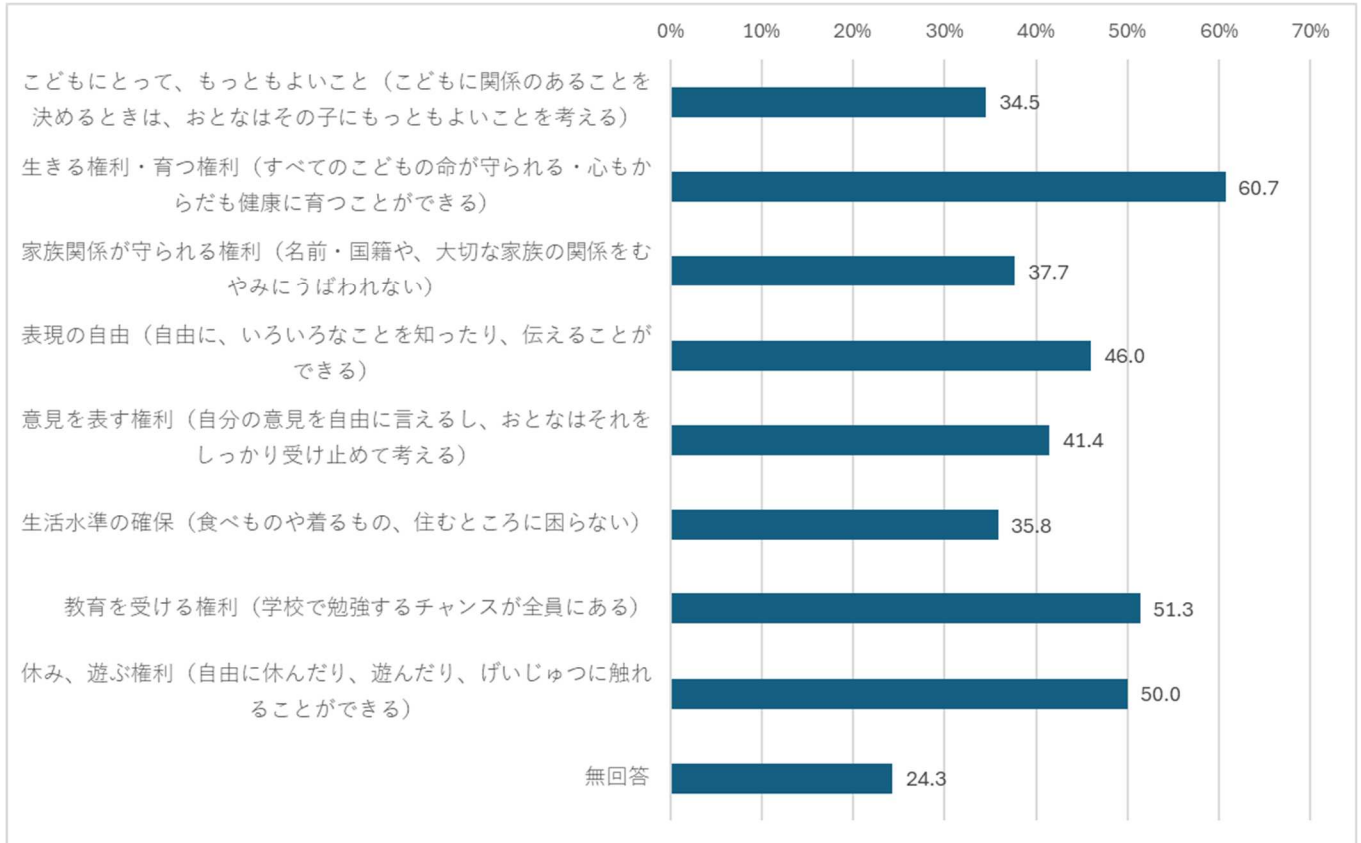
問22 意見表明等支援員（アドボケイト）を利用してみて、あなたの困りごとは解決されましたか。そのときの満足度について、おしえてください。（1つ選択）



- ・「無回答」が91.4%となっており、利用者が少なく、回答対象となることもほとんどいない。制度の効果

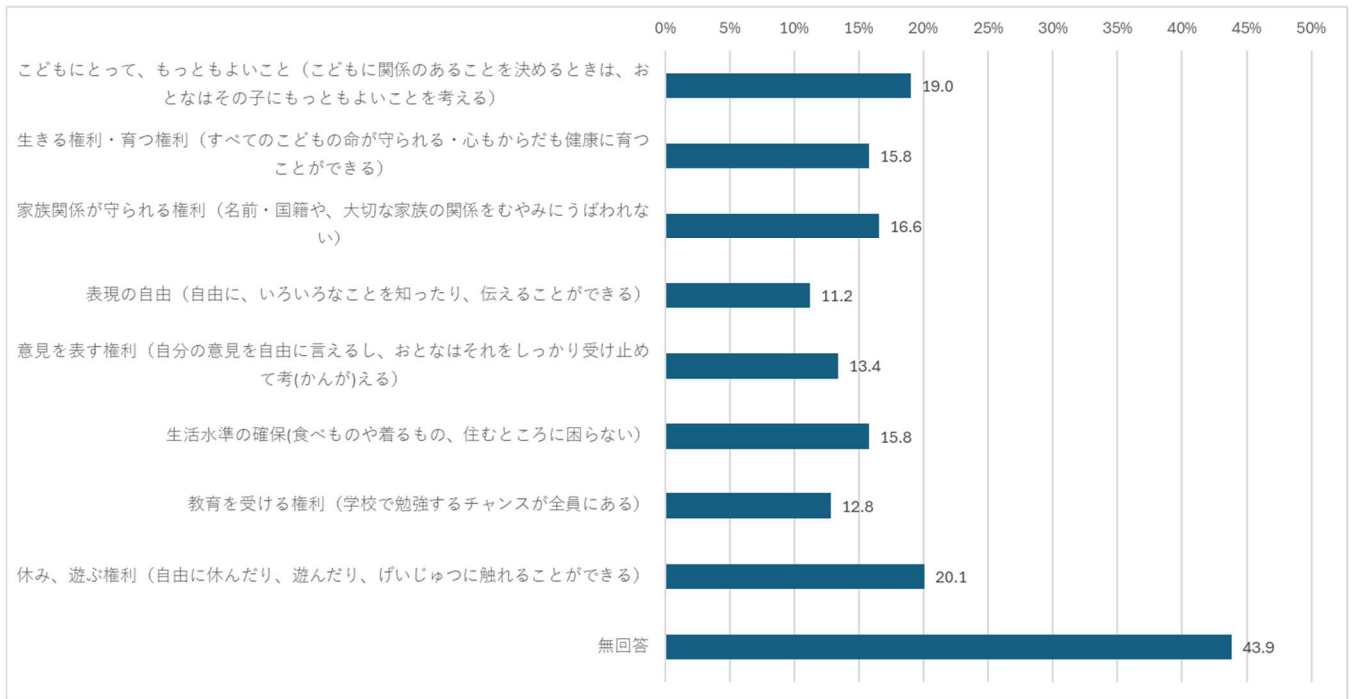
を議論できるほど利用実績が蓄積されておらず、アドボケイトがこどもの生活の中で機能しているとは言い難い現状にある。今後、認知・理解・利用促進が課題である。

問23 「権利」とは「言うことをきけば、勉強をすれば」などの条件なしに、あたりまえに守られるものです。世界のこどもたちを守る国際連合（国連）では、こどもにとって大切な権利を「こどもの権利条約」にまとめていて、そこには、すべてのこどもに次のような権利があると定められています。次にあるものは、すべてではありませんが、代表的な権利です。あなたが知っているものはありますか。（あてはまるものをすべて選択できます）



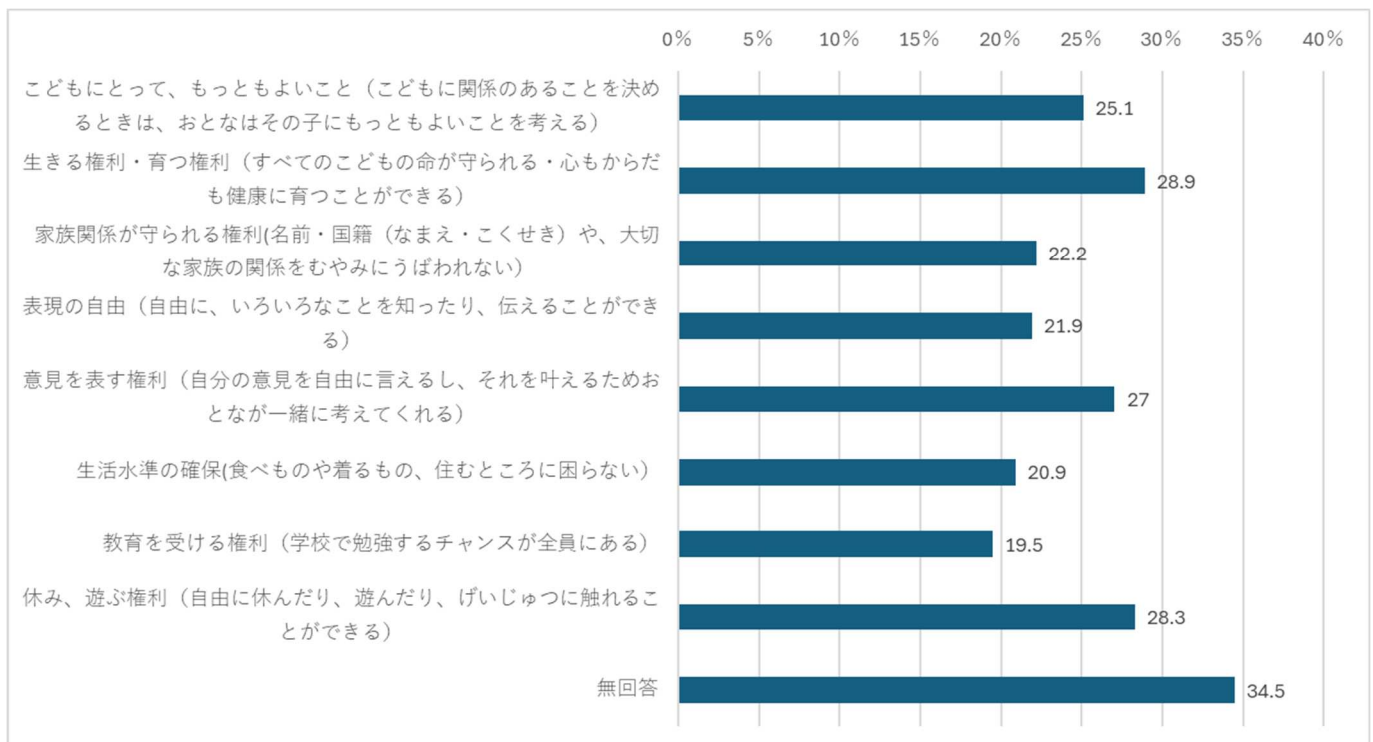
- ・「生きる権利・育つ権利」が60.7%、次いで「教育を受ける権利」51.3%、「休み、遊ぶ権利」50%となっている。
- ・「生きる」「育つ」「教育」「遊ぶ」といった日常に張り付く権利ほど見聞きする機会が多く、認知が高い。一方で、家族関係の維持（37.7%）、こどもにとって最もよいこと（34.5%）、生活水準の確保（35.8%）などは相対的に低めとなっている。こどもが経験を通して理解できる権利が上位に来ていると考えられる。
- ・無回答も24.3%と高く、権利概念の難しさ、選択肢数が多く回答に対する負荷が高い、権利への接触経験が少ない、ことが背景にあると考察。

問24 次のこどもの権利の中で、あなたが、これまではあまり聞いたことがなくて、もっと知りたい・深く勉強したいと思うものはありますか。(あてはまるものをすべて選択できます)



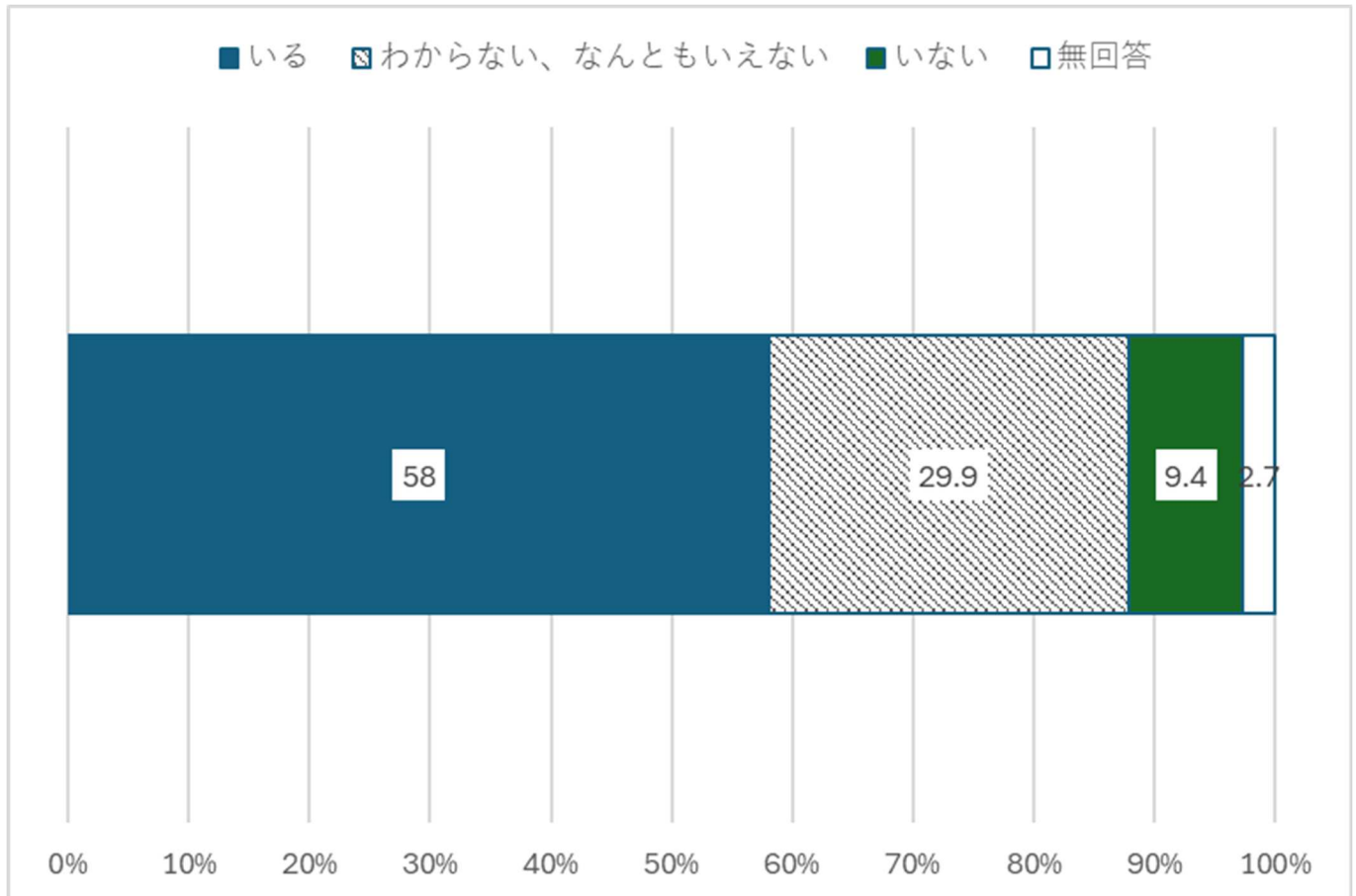
- ・「休み、遊ぶ権利」が20.1%、「こどもにとって、もっともよいこと」が19%となっている。
- ・「休み・遊ぶ」「家族関係」「生活水準」などが上位となっており、施設等での生活で自由や家庭との分断を意識する機会が多い、周囲の環境に制約がある、家族関係の複雑さへの関心、が推測され、生活実態と権利関心が結びついていると考えられる。
- ・「無回答」が43.9%と高く、知っているか、より知りたいかの判断の方が難しいことを反映していると考えられる。

問25 次のこどもの権利の中で、あなたがもっとおとなに守ってほしいものはありますか。(あてはまるものをすべて選択できます)



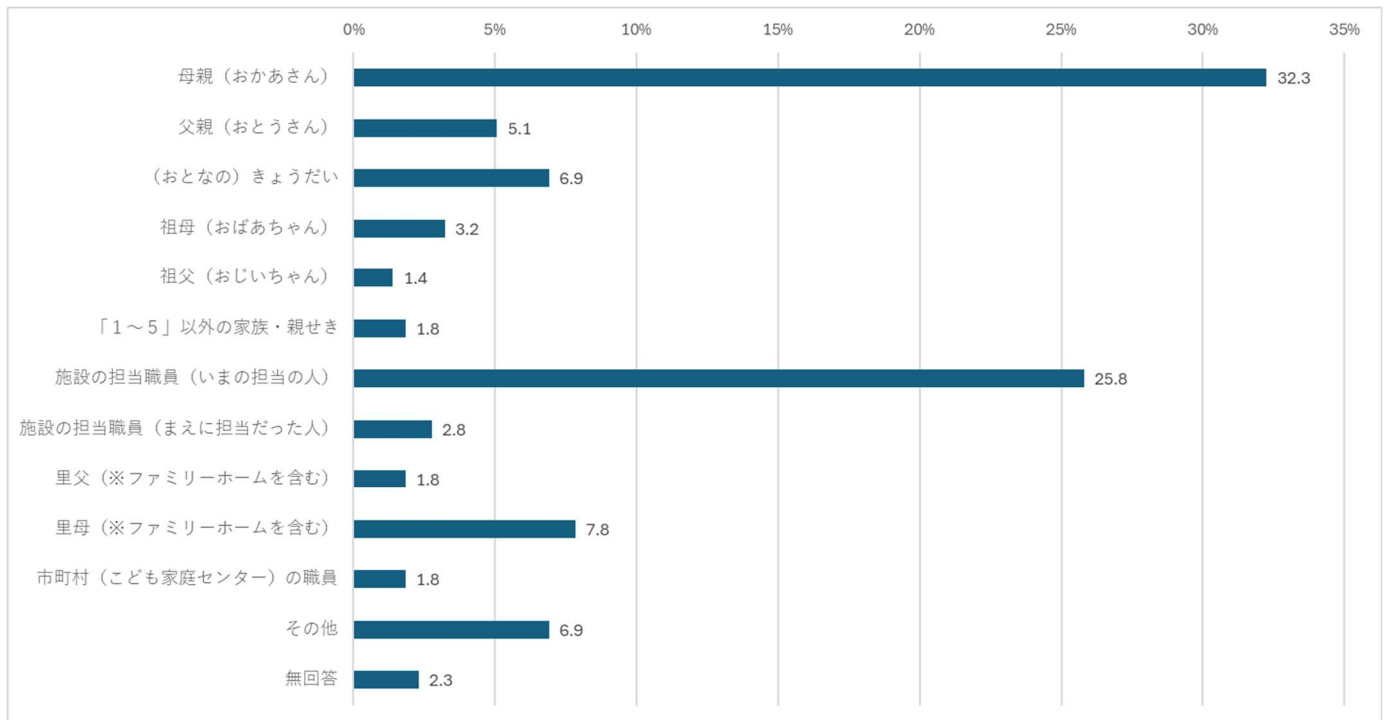
- ・「生きる権利・育つ権利」が28.9%、「休み、遊ぶ権利」が28.3%となっている。
- ・問24よりも各項目の値が増加しており、権利の理解は十分でなくとも権利を守ってもらいたいと思っていると考えられる。
- ・「意見を表す権利」が27%と上位となっており、こどもは自らの意見が取り上げられにくいという感覚を持っている可能性を示唆。

問26 自分がおとなになってもずっと自分のことを見守り、困ったときに助けてもらえると思うおとなの人はいますか。(1つ選択)



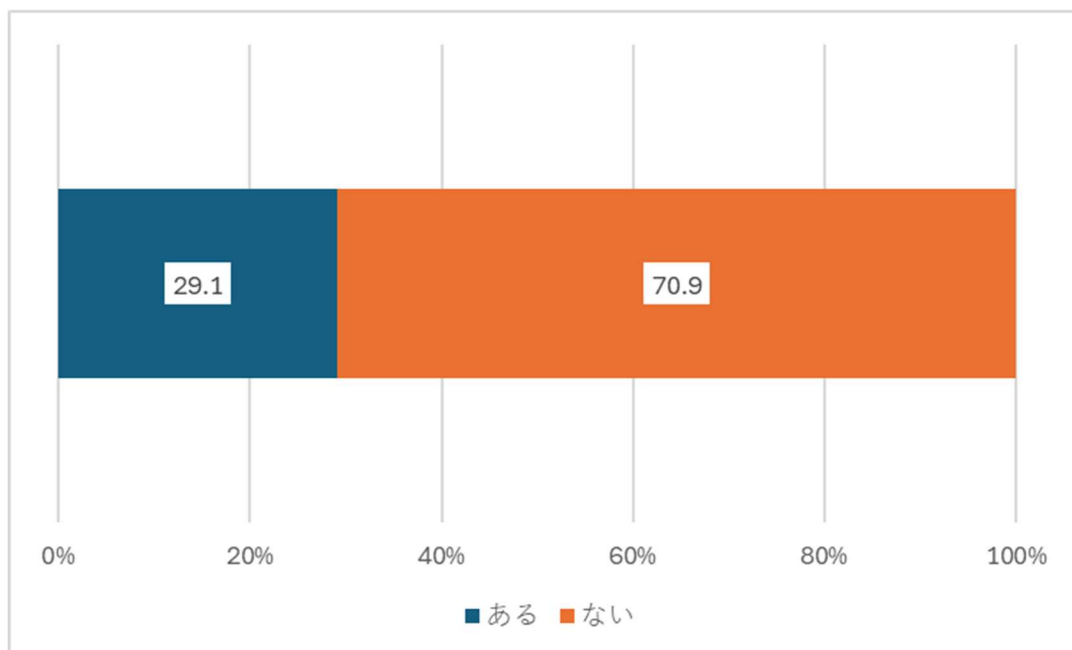
- ・「いる」が58% (+10.8ポイント)、以下「わからない、なんともいえない」29.9% (+2.1ポイント)、「いない」9.4% (-10.0ポイント)となっている。
- ・「いる」が58%と過半数を超え、昨年より10ポイント以上増加している。要因として、施設・里親による関係性の継続的支援、個別対応や見守りの質の向上、こどもの自己効力感の高まりなどが背景にある可能性。
- ・「いない」が9.4%に減少(-10ポイント)で、将来孤立を自覚しているこどもが減っている。
- ・一方で、「わからない、なんともいえない」が3割を占め、「関係性はあるが将来は不透明」または「現在の関係が将来も続く確信までは持てない」というこどもの心理の影響が考えられる。

問 27 問 26 で「1 いる」を選択した人にお聞きします。問 27 いちばんそう思う人について教えてください。（1つ選択）



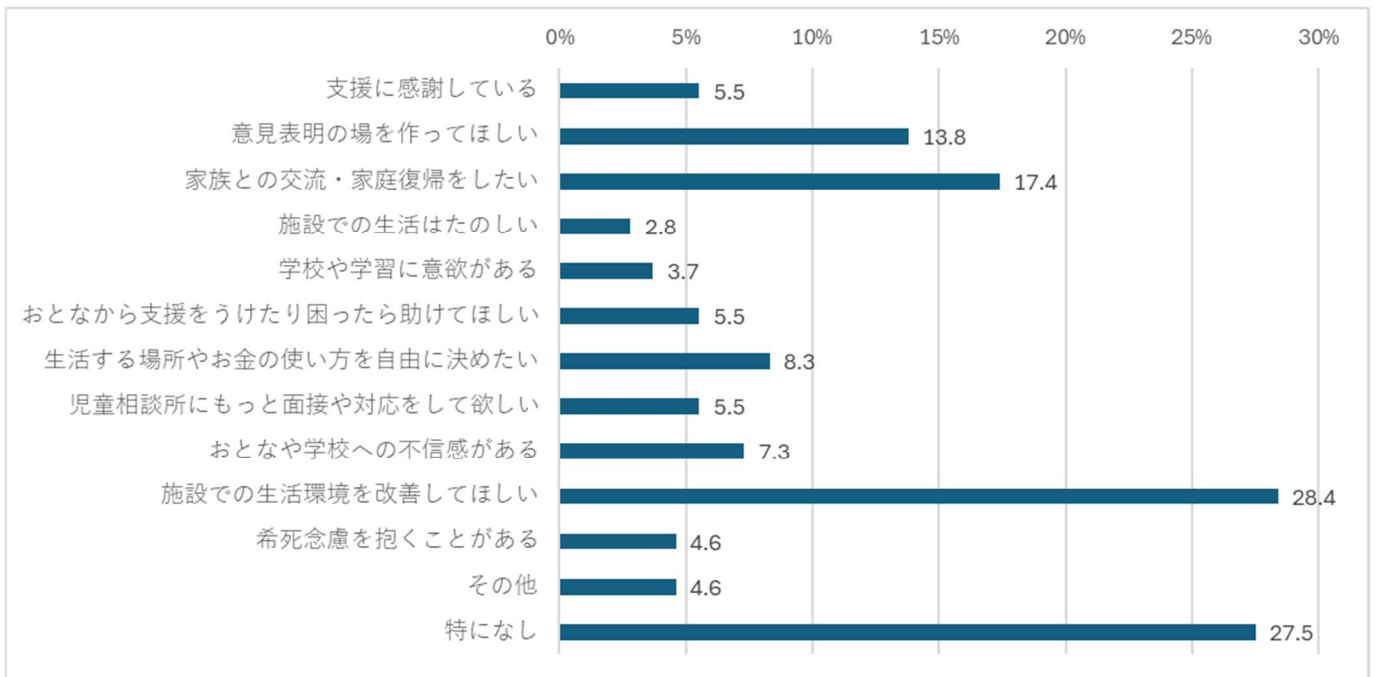
- ・「母親」が32.3%でもっとも多く、「施設の担当職員（いまの担当の人）」が25.8%だった。
- ・施設・里親委託という生活環境下にあっても、こどもにとって母親は最も強い心理的基盤であることを示唆。
- ・「施設の担当職員」の値が高い背景は、担当職員との継続的な信頼関係、日々の相談・支援の積み重ね生活の密接性に基づくもので、施設ケアによる重要な成果と考えられる。
- ・「母親」と「施設の担当職員」が高い値を示したことは、肯定的側面として、家族とのつながりの維持、日常的支援者との信頼関係の構築がある一方で、家族との関係が不安定となった場合の影響が強い、職員の異動による影響、こどもにとって選べる大人が少ない、ことも考えられ、見極めが必要。

問 28 おわりに、長野県（児童相談所を含む）や、施設・里親などに何か伝えたいことがあればメッセージを記入してください。（記述）



- ・「ある」が29.1%、「ない」が70.9%であった。
- ・「ある」が3割弱を占めており、選択肢だけでは伝えきれないニーズや想いが存在。こどもが普段、潜在化した要望や不満を抱えている可能性あり。

問28の内訳について

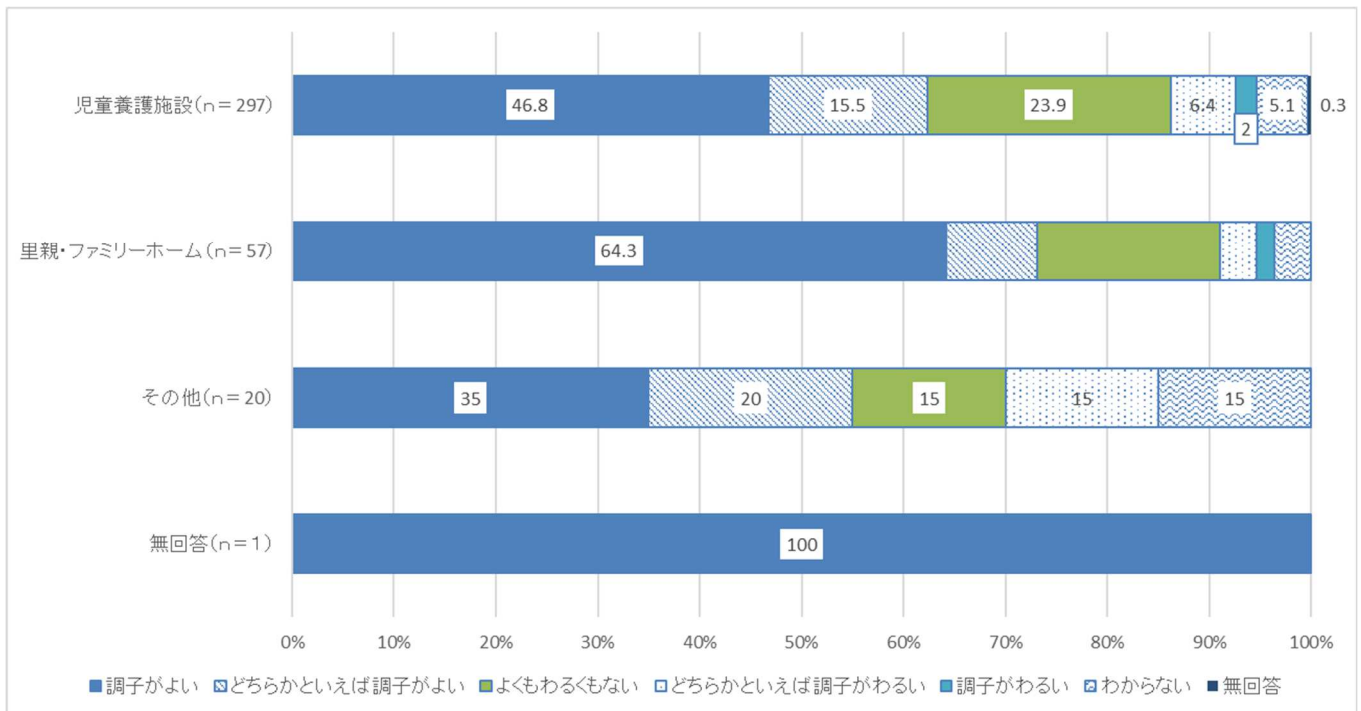


- ・「施設での生活環境を改善してほしい」が28.4%でもっとも多く、「家族との交流・家庭復帰をしたい」が17.4%、「意見表明の場を作ってほしい」が13.8%であった。
- ・「施設での生活環境を改善してほしい」が多く、背景に、自由やプライバシーの制約への不満、食事・部屋の環境・ルールの厳しさ等が考えられる。
- ・「家族との交流・家庭復帰をしたい」については、家庭分離の寂しさや家族の状況に対する不安、帰属感の揺らぎの影響が示唆。面接機会の柔軟化や家族側への支援の強化が求められる。
- ・「意見表明の場を作ってほしい」は、こどもが自らの声が届いていない、と感じている可能性あり。話しても変わらないといった体験や、意見を伝える場がない等が考えられる。

2 クロス集計

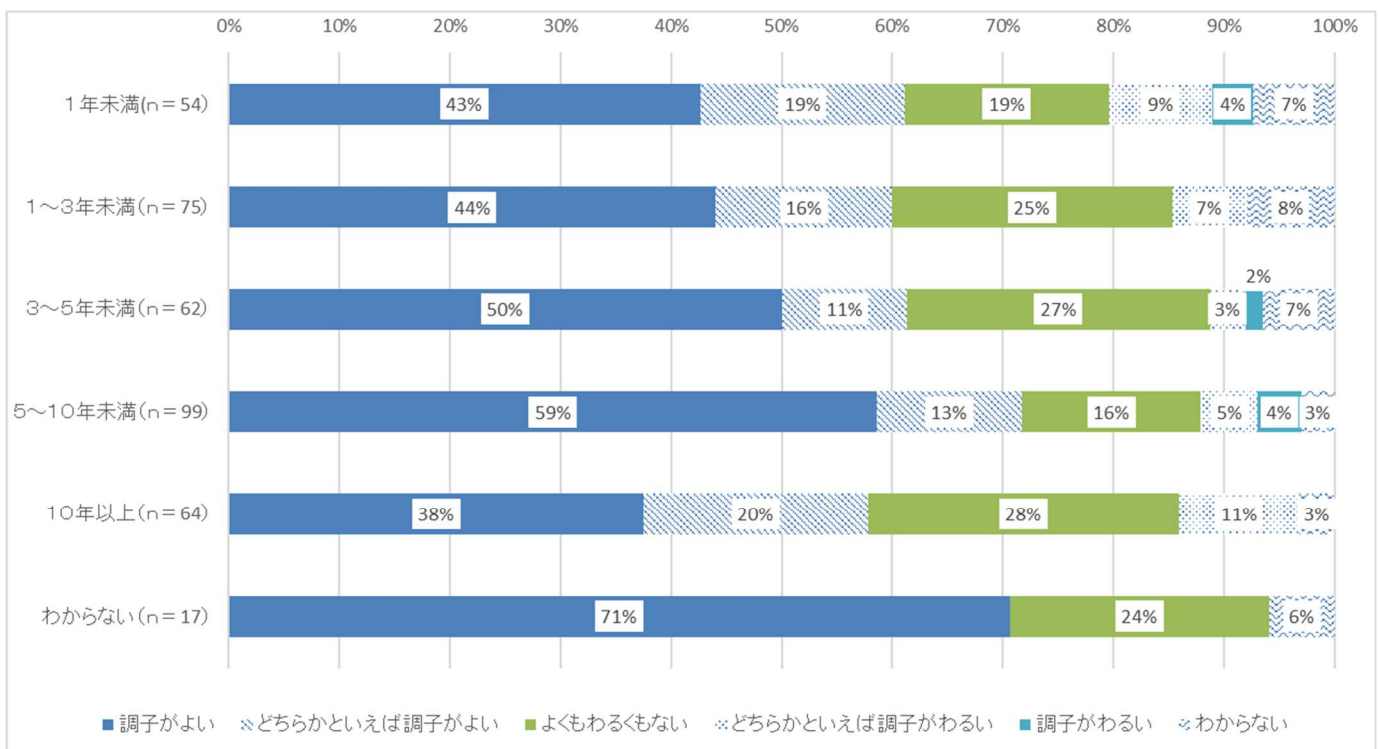
問5 いまの心と体の調子について

<措置等先別>



- ・里親・ファミリーホームは「調子がよい」が64.3%で、児童養護施設と比べ、17.5ポイント高くなっている。
- ・家庭的で一貫した関わり、少人数・個別性の高さ、生活リズム・意思決定の柔軟さが、こどもの調子の肯定的感覚を押し上げている可能性があるが、措置されているこどもの状況等が里親等と施設において異なるであろうことも考慮する必要がある。

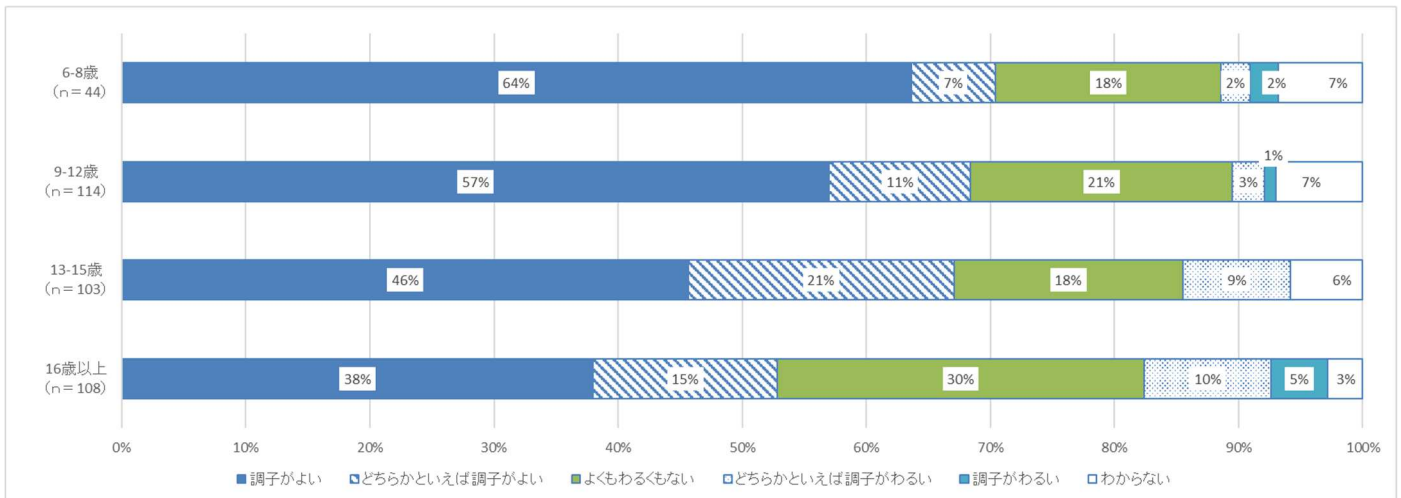
<措置等年数別>



- ・10年以上は「調子がよい」が38%で、他の年数よりも5ポイント以上低い。

- ・長期措置では、家族関係の揺れ・将来不安（進学・就職）・支援者交代などが重なり、心理的疲労や諦観が生じやすい可能性あり。

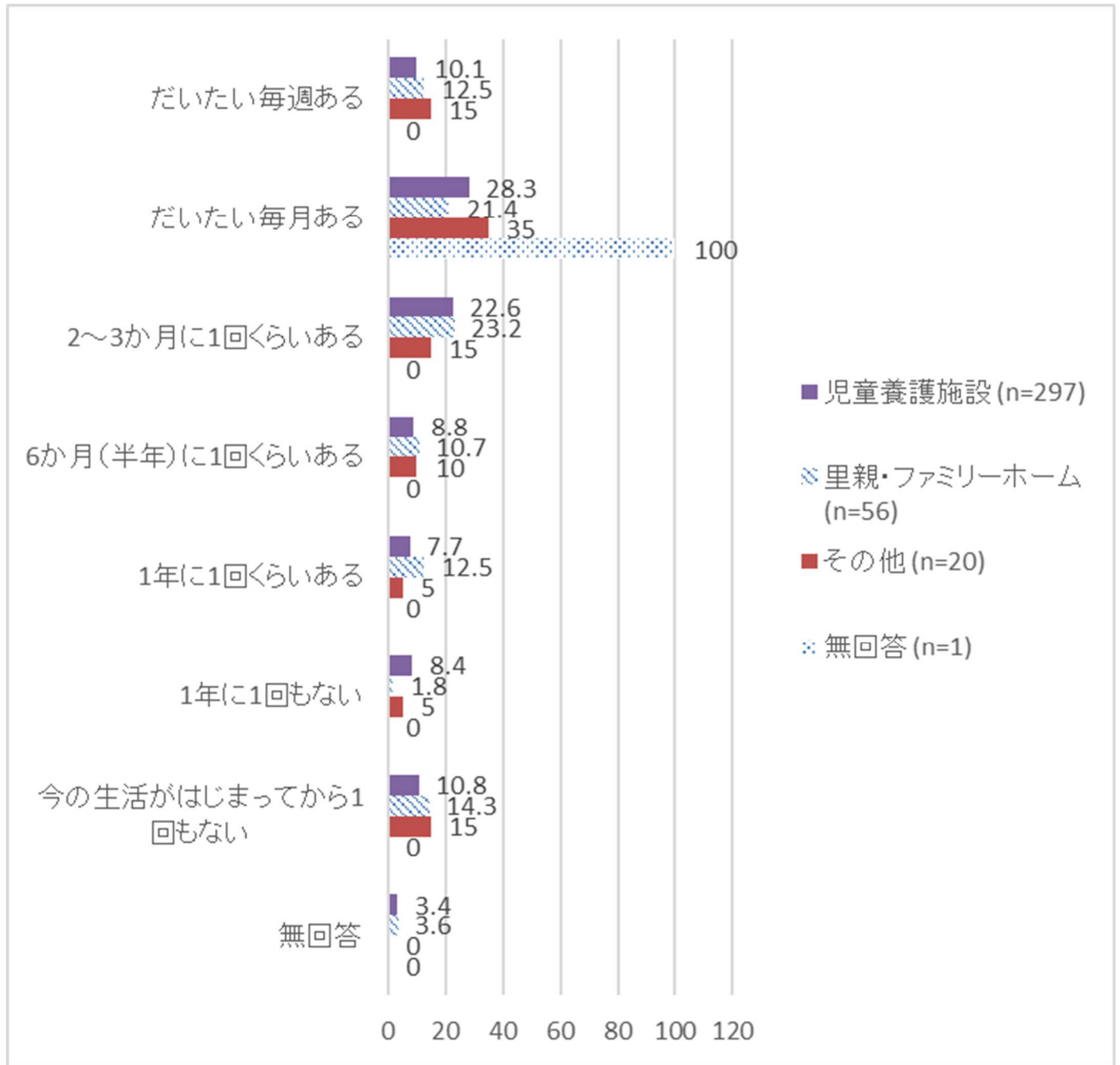
<年齢別>



- ・年齢が上がるにつれて「調子がよい」の割合が低くなっていく。
- ・思春期・青年期は自己像・進路・対人に関する課題が複合化し、年齢上昇とともにテーマの重みが増し、結果として自己調子の肯定が下がる構造と考えられる。

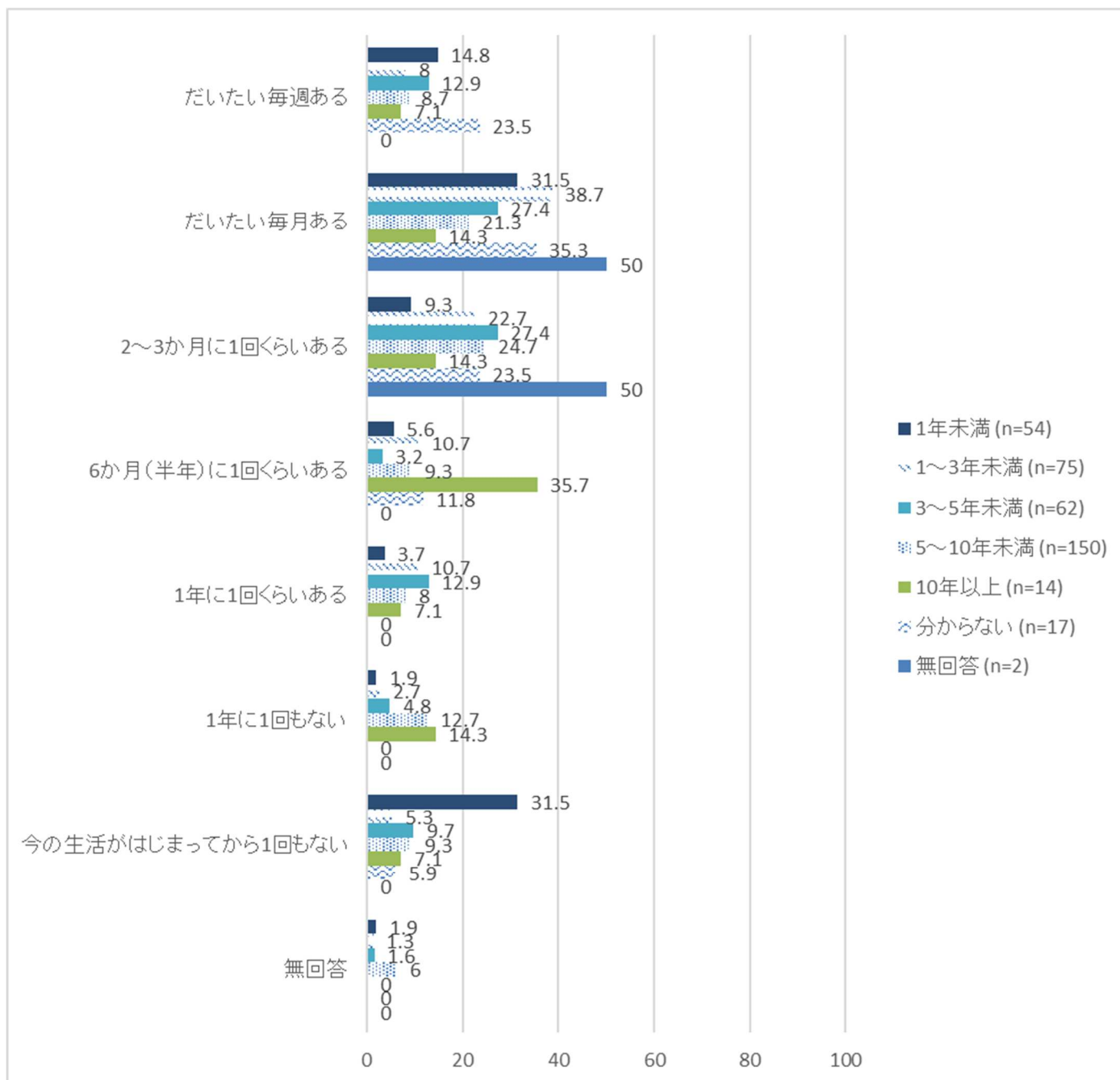
問 10 交流の状況について

<措置等先別>



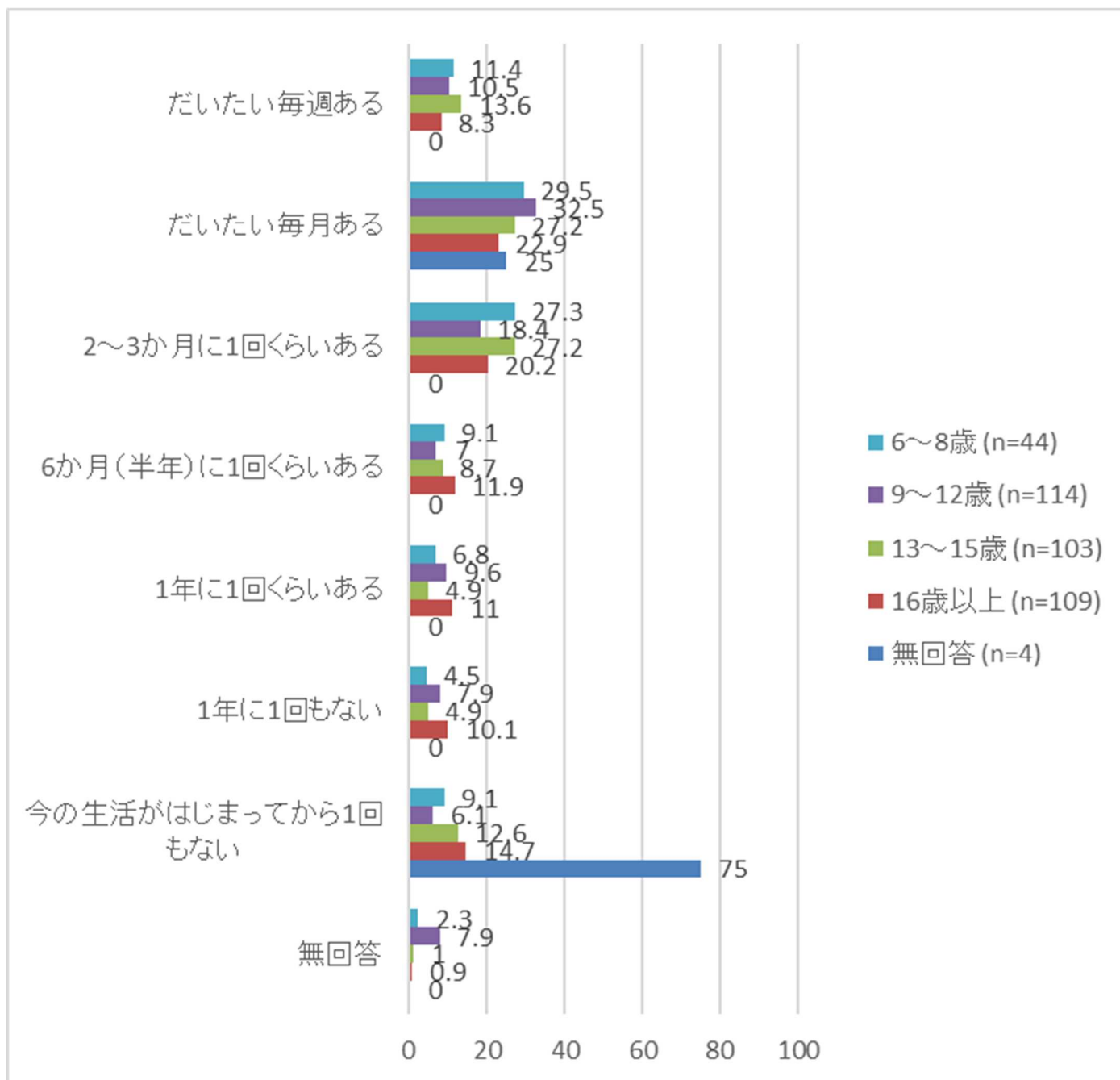
- ・「今の生活がはじまってから1回もない」は、里親・ファミリーホームは14.3%で、児童養護施設よりも3.5ポイント多い。
- ・児童養護施設は、面会・連絡のルールや窓口が組織的に整備され、交流が完全に途絶える状況になりにくい構造と、里親は家庭側の状況に左右されやすいことが影響している可能性あり。

<措置等年数別>



- ・ 1年未満は「今の生活がはじまってから1回もない」がもっとも多く、31.5%となっている。
- ・ 分離や移行初期にあつては、連絡経路の未整備や前居場所との調整が進んでいない等により、交流頻度が減少していると考えられ、課題である。

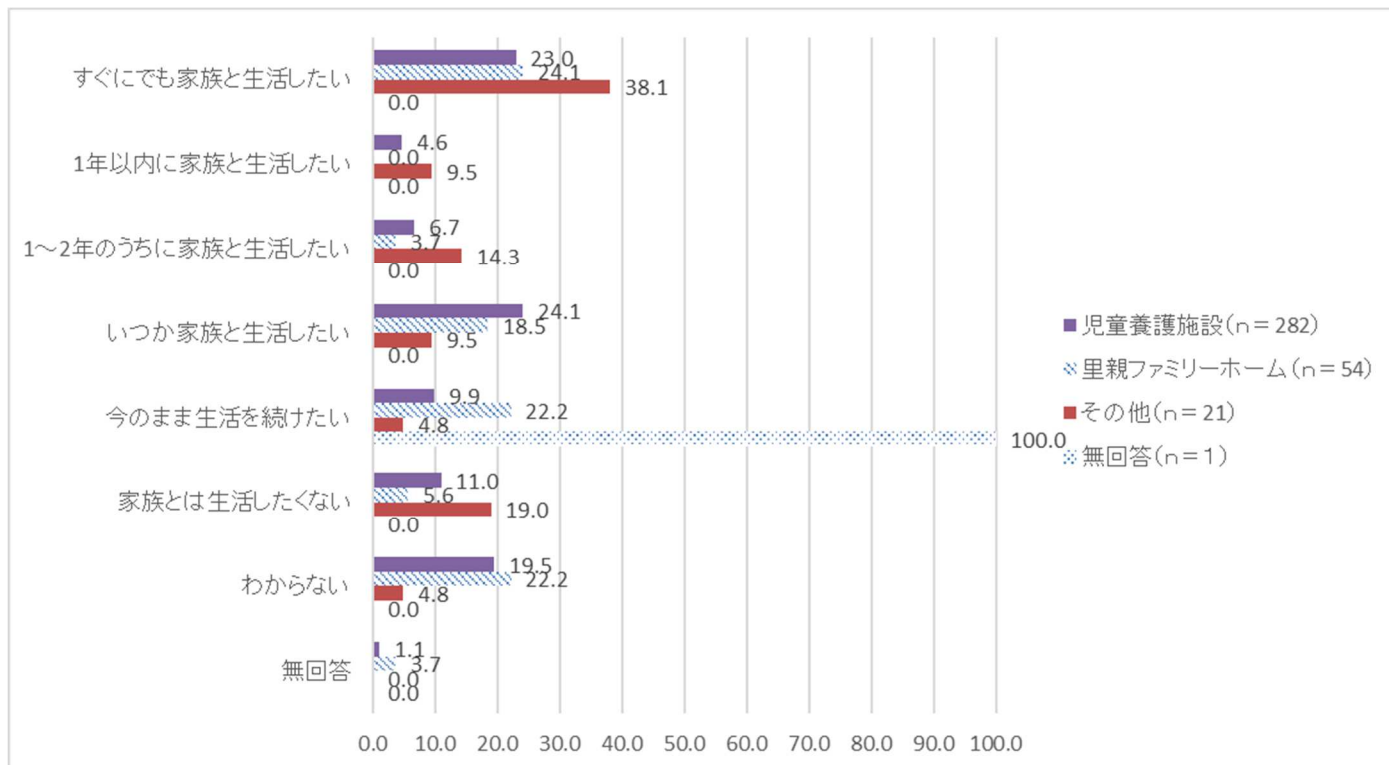
<年齢別>



- ・ 9歳～12歳において「だいたい毎月ある」は最も多くなるが、その後は年齢が上がるほど低下していく。
- ・ 思春期以降は、進学・部活・友人関係など生活の重心が家庭外に広がる一方で、家庭関係における葛藤の難度が上がり、交流の質や頻度が変化しやすいとも考えられるが、措置が長期化することにより家族関係が希薄になる傾向も考えられる。

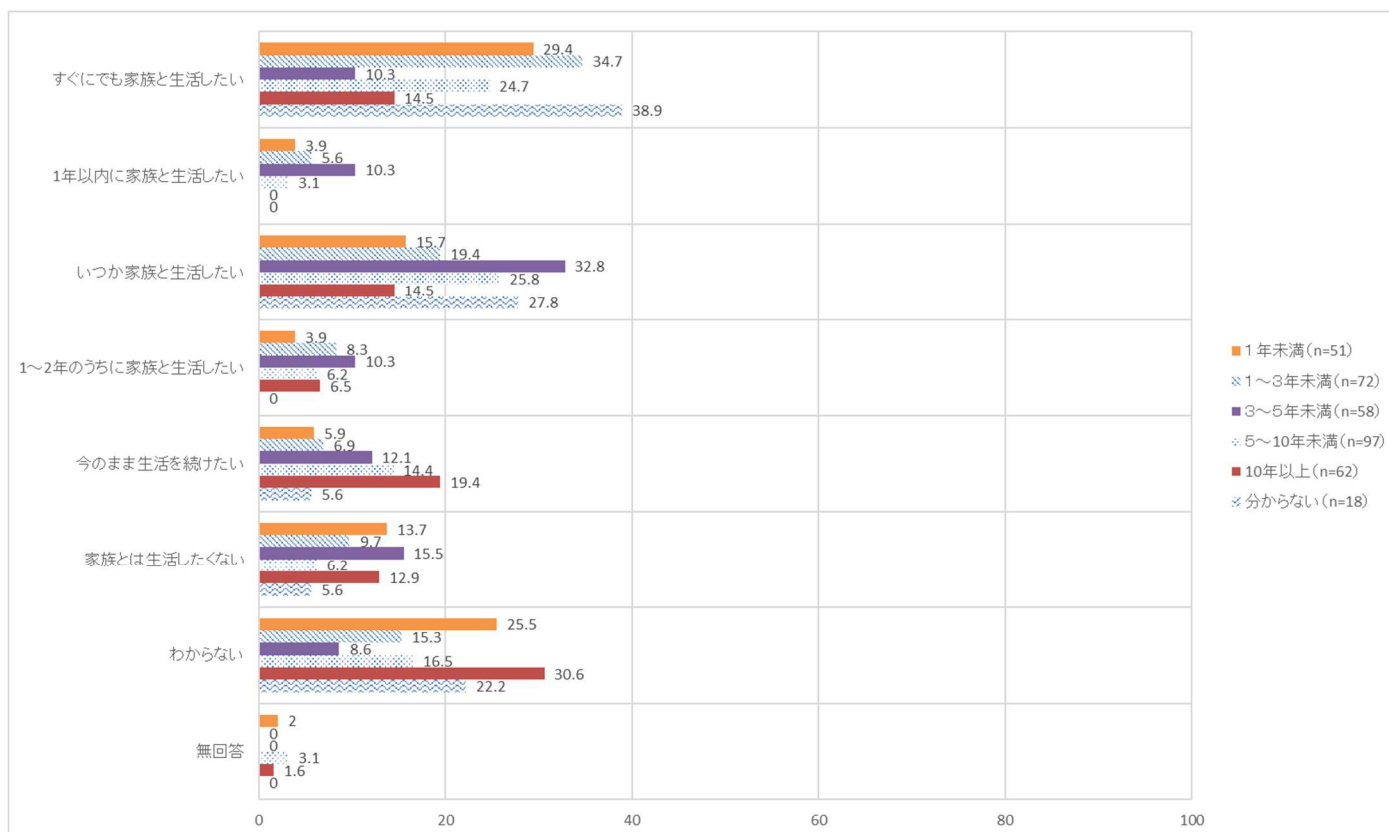
問 13 家族との今後の生活について

<措置等先別>



- ・ 児童養護施設では、「いつか家族と生活したい」が最も多く「すぐにも家族と生活したい」が続く。里親ファミリーホームでは「今のまま生活を続けたい」が児童養護施設よりも 12.3 ポイント高い。
- ・ 施設へ入所をしているこどもの方が、里親ファミリーホームより相対的に家庭復帰の希望が高い。

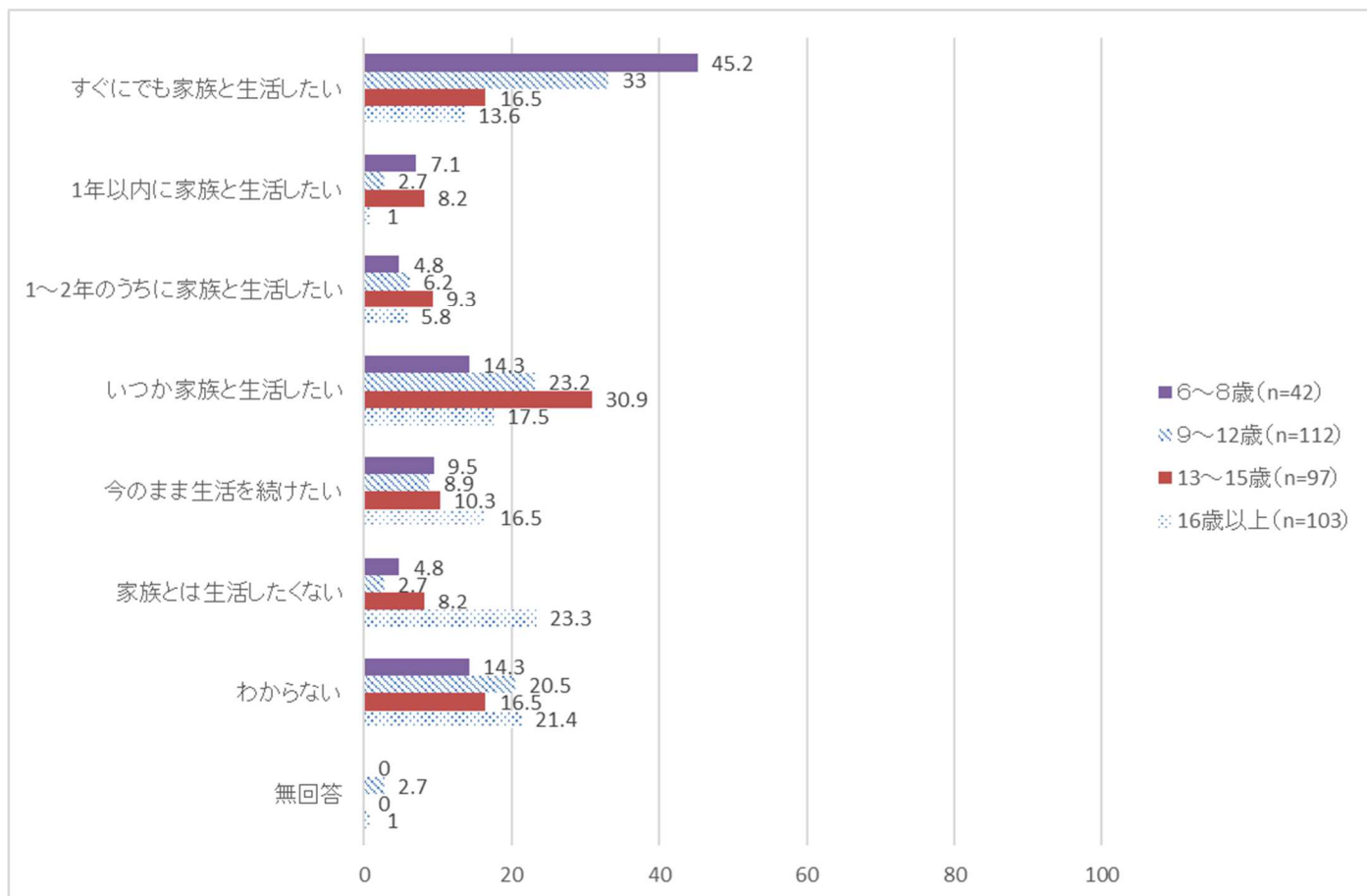
<措置等年数別>



- ・ 3～5年未満と10年以上では、「すぐにも家族と生活したい」が他の年数と比べ低くなっている。

- ・ 3～5年未満は、初期の揺れが落ち着き、現場・学校・友人関係が形になりつつある移行中期。直ちに戻るより段階的な見通しを求めると考えられる。
- ・ 10年以上は、長期化による現実適応・諦観・価値観の変容が起こりやすく、家族再統合の実現可能性に慎重になり、自立志向へシフトするケースも増えることが考えられる。

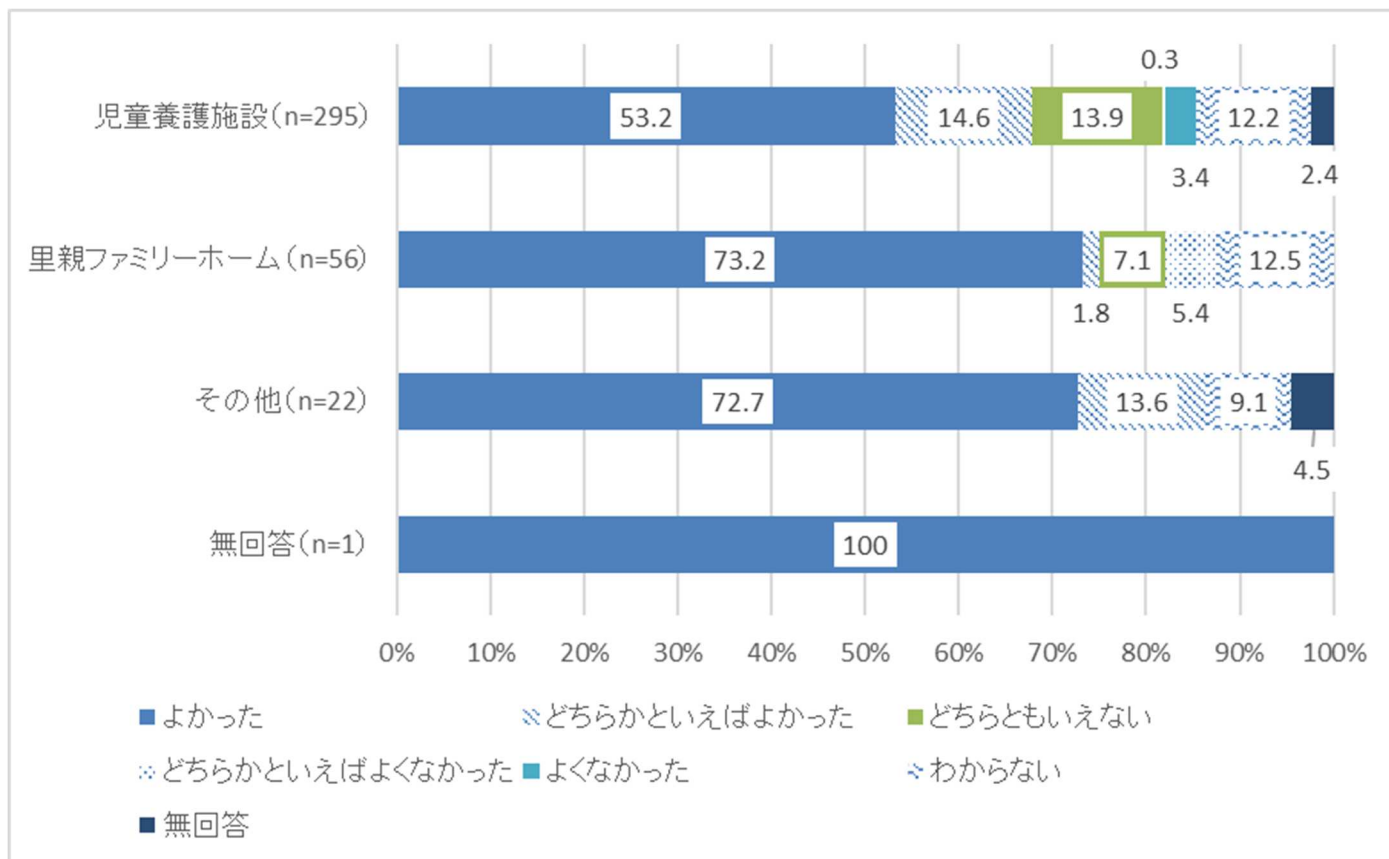
<年齢別>



- ・ 年齢が上がるにつれ、「すぐにも家族と生活したい」が少なくなる。16歳以上では、「家族と生活したくない」が他の年齢と比べて15.1ポイント以上多くなる。

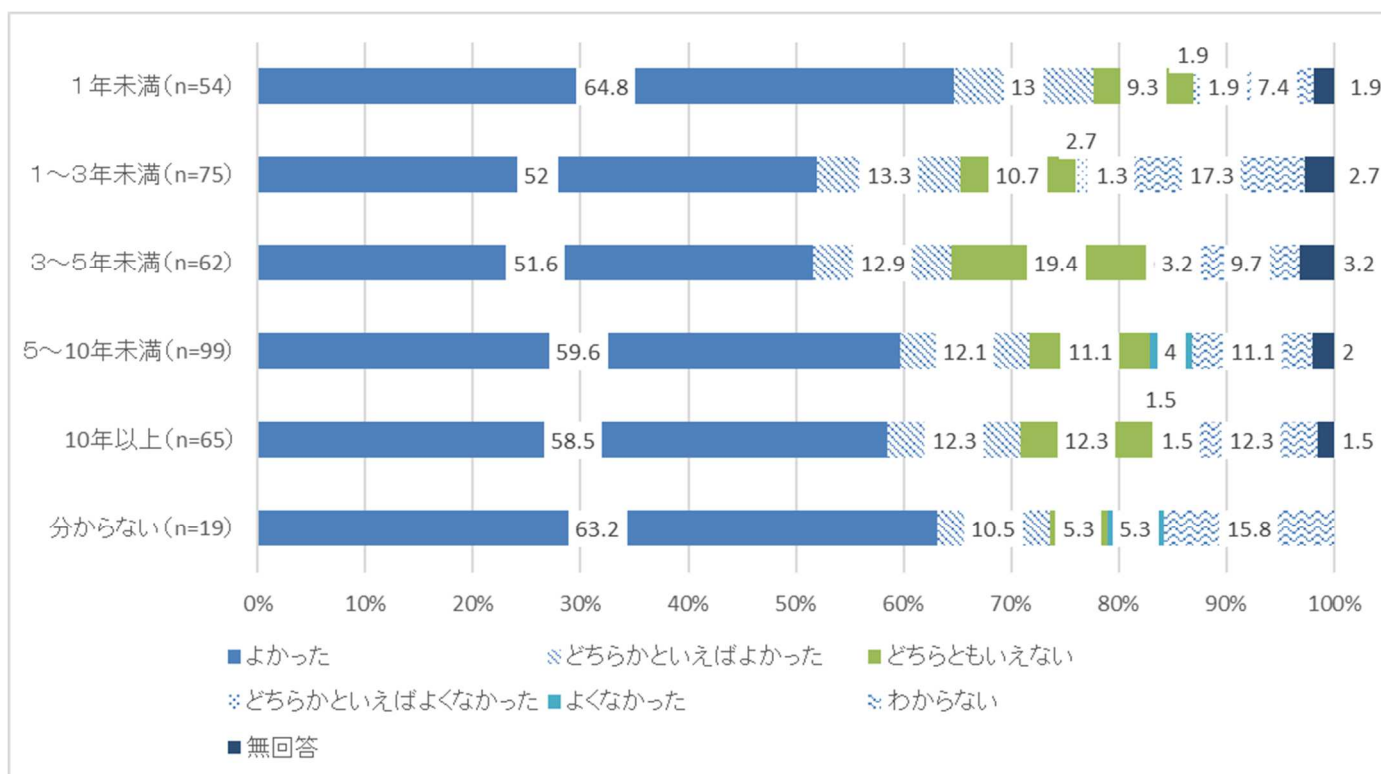
問 14 施設職員や里親などからのサポートについて

<措置等先別>



- ・里親ファミリーホームの「よかった」が最も多く、児童養護施設よりも 20 ポイント高い。
- ・日常の意思決定の自由度、個別性、継続的な関わりが支援を受けている感覚を高めやすいと考えられる。

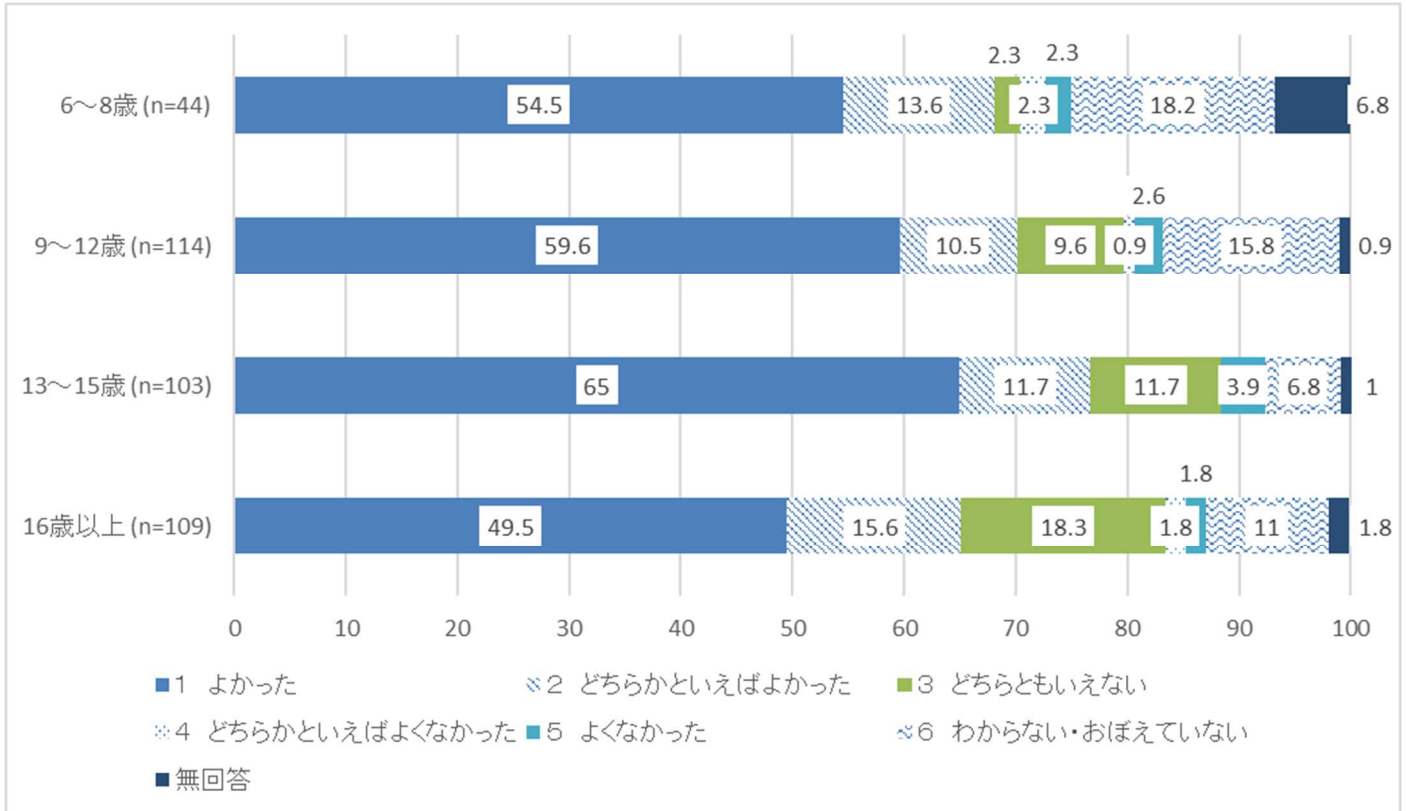
<措置等年数別>



- ・1年未満が 64.8%と最も高く、3~5年未満が 51.6%で最もひくい。

- ・初期（～1年）段階においては、新環境適応期で支援接触が密であり、変化が成果として体感しやすいと考えられる。
- ・中期（3～5年）では、課題の複雑化・進路、対人の悩みの増加・担当交代の累積などで効力が感じづらい可能性あり。
- ・長期（10年以上）においては、将来展望が見えづらく、期待値とのギャップや疲労感が蓄積することの影響も示唆。

<年齢別>

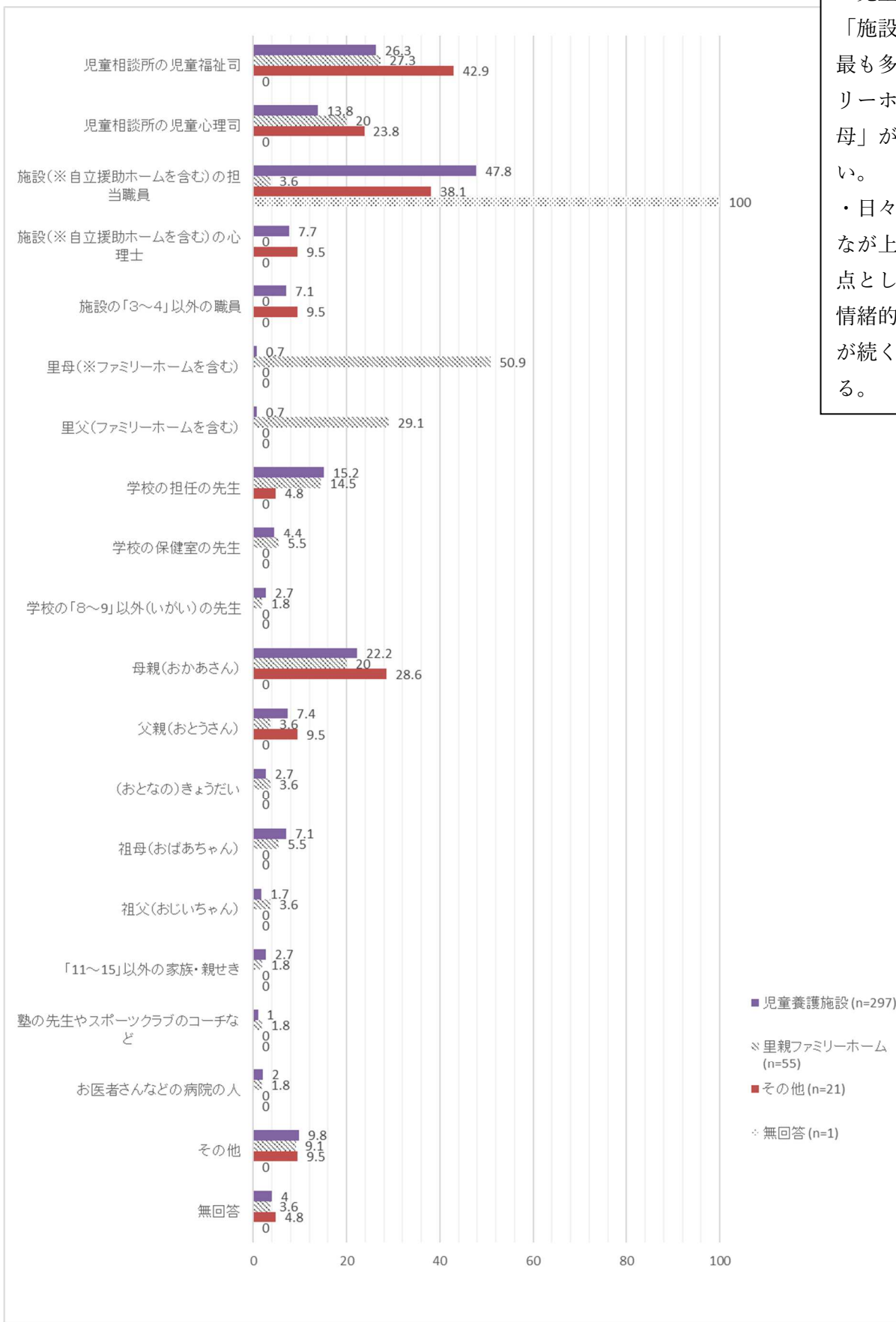


- ・13歳～15歳の「よかった」の割合が65%で最多だが、16歳以上になると49.5%で最も低くなる。
- ・自立に向かう局面で、進路・就労・家計・住まい等について、伴走的な支援が得られにくい可能性あり。

問 17 困っていることや不安なこと、心配をなんでも相談できるおとなについて

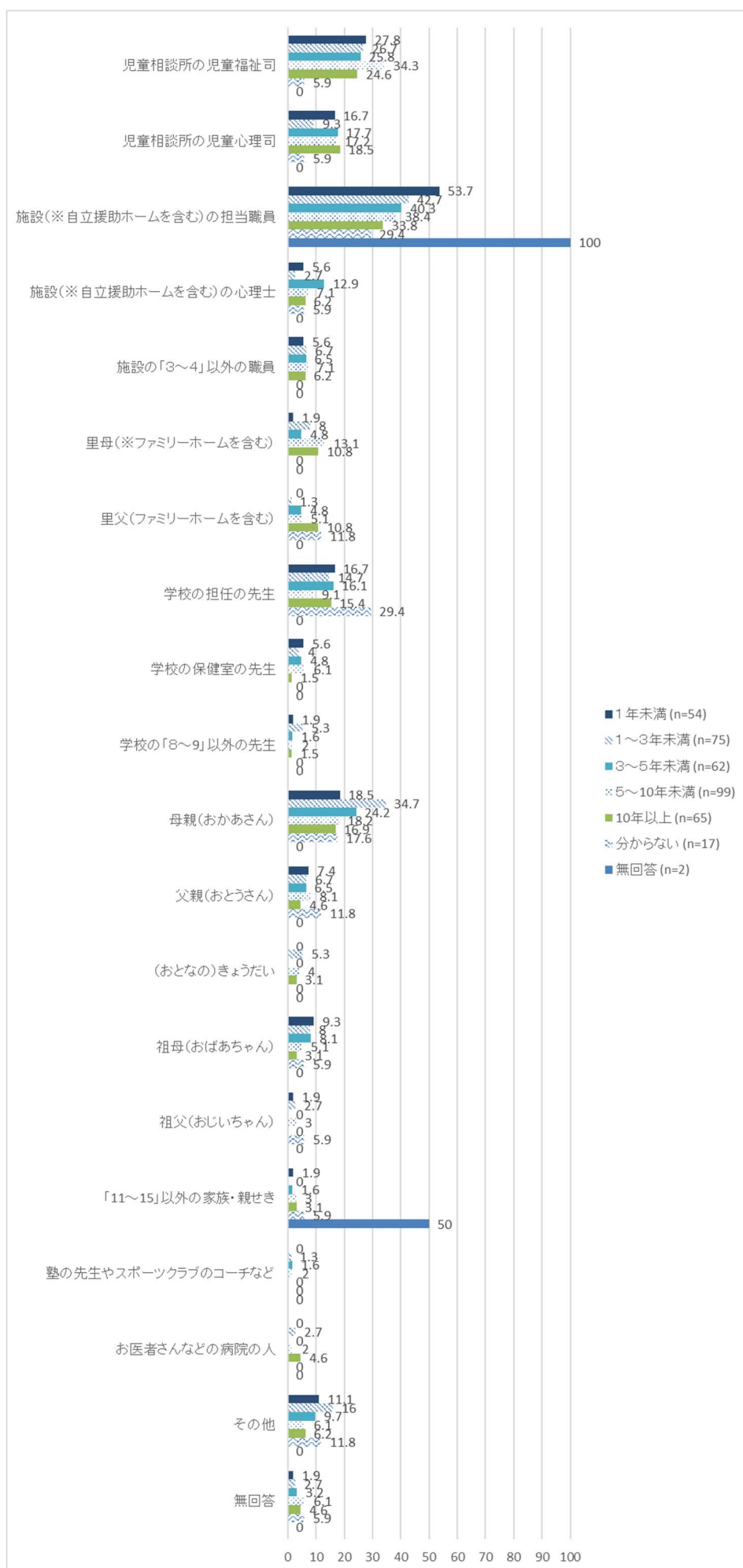
10 児童相談所の児童福祉司	11 児童相談所の児童心理士
12 施設（※自立援助ホームを含む）の担当職員	13 施設（※自立援助ホームを含む）の心理士
14 施設の「3～4」以外の職員	15 里母（※ファミリーホームを含む）
16 里父（※ファミリーホームを含む）	17 学校の担任の先生
18 学校の保健室の先生	22 学校の「8～9」以外の先生
23 母親（おかあさん）	24 父親（おとうさん）
25 （おとなの）きょうだい	26 祖母（おばあちゃん）
27 祖父（おじいちゃん）	28 「11～15」以外（いがい）の家族・親せき
29 （いま住んでいるところの）近所のおとな	30 塾の先生やスポーツクラブのコーチなど
31 お医者さんなどの病院の人	32 その他（ ）
33 不安や心配をなんでも相談できるおとなはいない	

<措置等先別>



・児童福祉施設では「施設の担当職員」が最も多い。里親ファミリーホームでは、「里母」が50.9%で最も多い。
 ・日々そばにいたおとなが上位に位置し、次点として児童相談所、情緒的支えとして母親が続く構造となっている。

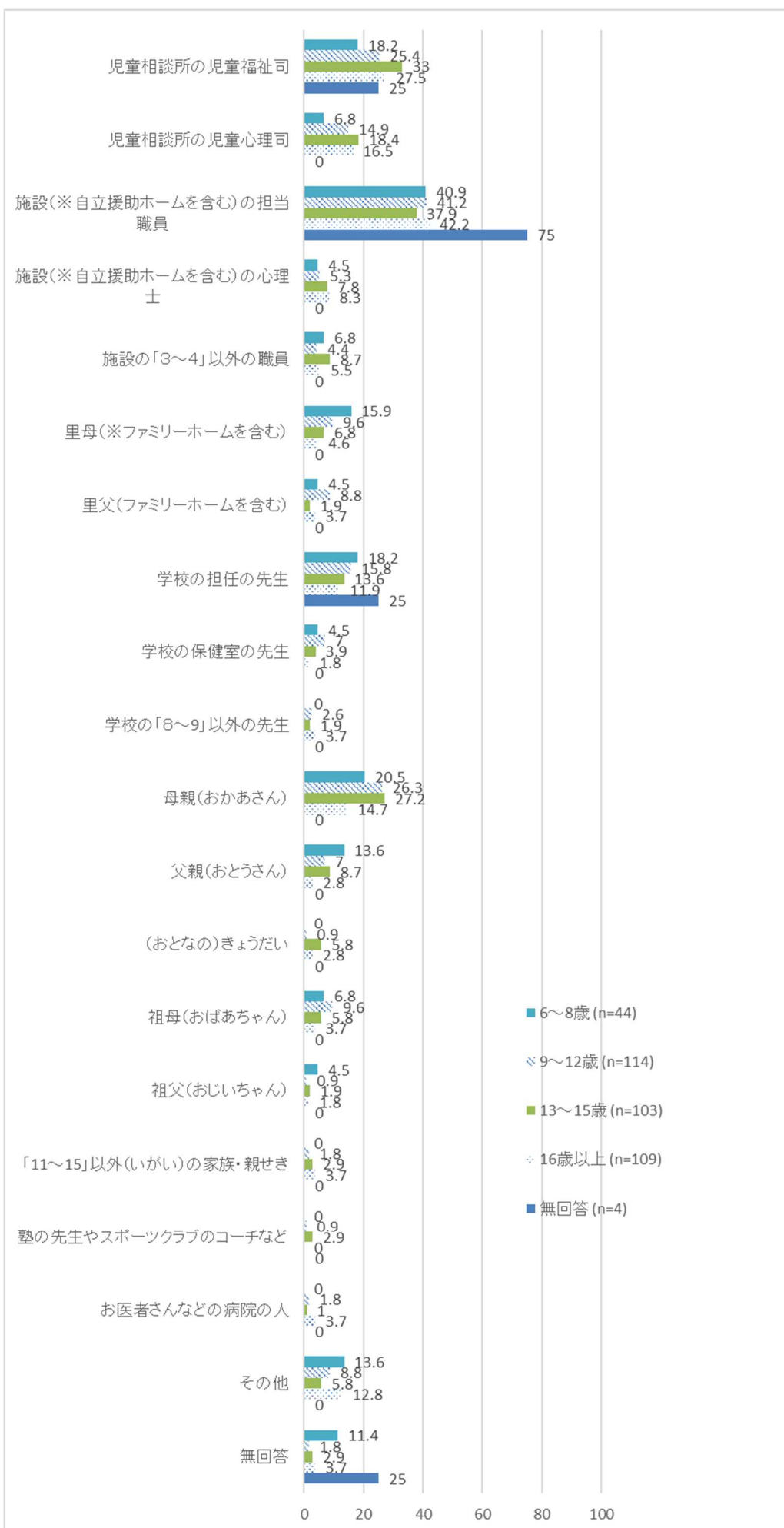
<措置等年数別>



年数が上がるほど、「施設の担当職員」の割合が少なくなる。また、「里父(ファミリーホームを含む)」は、年数が長くなるほど高くなる。

- ・初期は担当職員の役割が大きく、年数とともに児童相談所・母親に分散しており、時間経過で相談ネットワークが複雑化していく。

<年齢別>



「里母(※ファミリーホームを含む)」と「学校の担任の先生」は年齢が上がるにつれて低くなる。
 「施設(※自立援助ホームを含む)の心理士」は、年齢が上がるにつれて高くなっている。
 ・年齢が上がるにつれ母の比重は低下、児相・心理など専門職の比重が高まる。